

建築と社會

The Architectural Association of Japan

4

民間放送建築特集

新建築紹介

- 不二屋心齋橋店 1
國際見本市會館 5

記事欄

- 朝日放送、演奏所に就いて..... 松室重典... 8
ラジオ京都演奏室設計覺書..... 曾田友也... 13
NJB新日本放送スタジオ綜合音響測定報告
..... 小川 正... 17
二人の徒弟（近代建築發展の一試論）.....
..... 徳田 順... 24
ハダキ回答最近竣工の建築を批評する.....
..... 編集委員會... 26
會 務 31

1952 Vol. 33

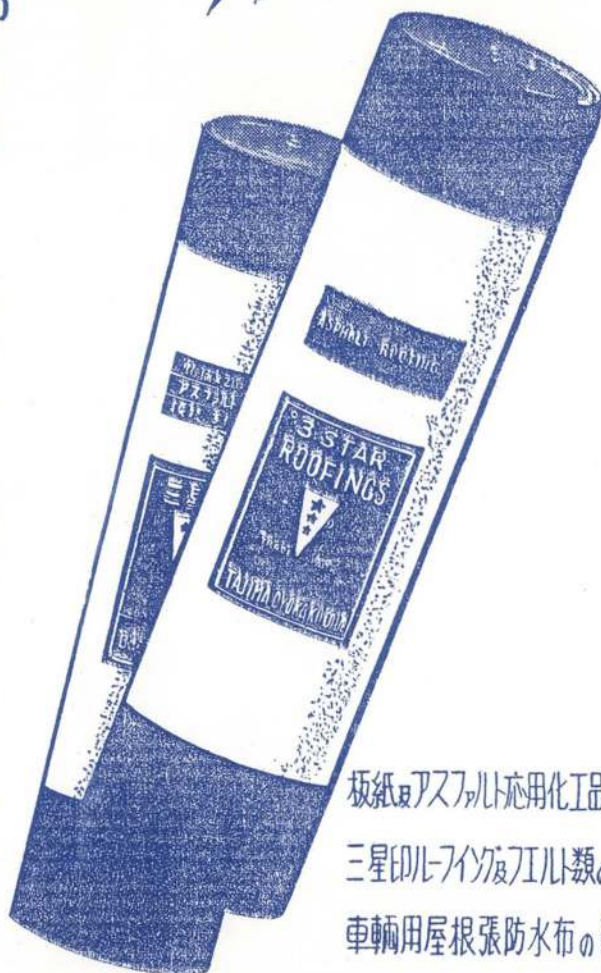
日本建築協會

田島応用の

三星印



ルーフイング



● 未だアメリカ品に劣るものはないとは言へませんがS.P.BとJ.L.Cに当社品を数十万本（本21）納入してまだ二度もクレームの無いことは世界的水準に達してゐることの証據です

（登録商標・専売品）

殊に防水工事には、**ギルソド石綿ルーフィング**及**アスベストフェルト**をアメリカ品にも遜色のないものと自負して御薦めします。

板紙アスファルト応用化工品の製造

三星印ルーフィング及フェルト類の製造

車輛用屋根張防水布の製造

三星印アスファルトタイル製造元

田島応用化工株式會社

東京・足立区小台 TEL.王子(81) 5171-5175 夜間代表 5171
 大阪・西区京町堀上通 TEL.土佐堀(44) 0809-0810-1773

会 告

日本建築協会三十五年記念事業

新時代の小住宅設計図案懸賞募集規程

(締切期日を五月十日に変更)

1. 設計の要旨

戦後民主生活の普及により、我々の住生活も相当改変されるに到つた、本会は茲において、新時代に即応した小住宅の設計図案を下記により募集する。その設計は、生活様式の刷新を図ると共に、資材の活用、簡易構造の工夫、及び建築費の低減を計るものとす。本募集に当選したものはこれを実施して展覧する意図をもつものであるから、少くもモデルハウスの的な価値をもつものでなければならない。

2. 応募設計要件

- (イ) 敷地の大きさは100坪以内にて、その位置、形状、方位、道路、隣地との関係など任意に想定すること、何れの地に於いても建築基準法の適用を受くるものとする。
- (ロ) 住宅は延面積15坪乃至20坪とする階層は自由とする。
- (ハ) 所要室、任意とするも、特に家事室に対し、考慮すること。
- (ニ) 様式・構造・材料・任意とするも資材の活用、簡易構造の工夫を望む。
- (ホ) 建築費は電気水道を含み坪当り3万円乃至4万円程度とする。

3. 所要図面及び設計説明

- (イ) 平面図縮尺50分の1
図面の上方をほぼ北となし、二階があればその位置を第一階平面図に朱点線を以つて示すこと。
- (ロ) 立面図二面以上、縮尺50分の1。透視図に表れない側を含むものとす。
- (ハ) 透視図外部
- (ニ) 其他、要すれば、構造、設備の図面を添えること
- (ホ) 設計説明はその概要を簡明に図面の余白に記入すること。

4. 審査員(略敬称・五十音順)

伊東五郎、大林芳郎、小林清、滝沢真弓、竹中鎌一、塚本猛次、中野順次郎、伴 潔、森 忠一、吉田安三郎

5. 入選者の人数並に賞金

1等 1名 3万円 2等 2名 1万円宛
佳作 5名 5千円宛

6. 締切期日

昭和2年5月10日正午

7. 入選者発表

審査の結果は本人に通知をなすと共に「建築と社会」六、七月号誌上に発表す(尙今秋挙行の住宅展覧会々場展示予定)

8. 応募心得

- (イ) 応募者は本会々員に限・一人一案とする。
- (ロ) 図面は、大きさ、タテ50寸、ヨコ70寸の画用紙に墨書すること、透視図は彩色してもよし。
- (ハ) 図面には暗号を右下隅に附し、別に暗号並びに住所、氏名、職業(勤務先とも)を記した紙片を密封し封書の表面には、前記暗号を記入すること。
- (ニ) 応募図案に関する一切の権利は本会に帰属するものとす。
- (ホ) 応募図案は一切返送しない。

9. 応募図案送り先

大阪市北区中之島朝日ビル六階
日本建築協会

大阪市東区京橋三丁目建設会館内
日本建築協会分室

会 告

建 材 審 査 証 明 書 発 行 の 件

予て申出に係る磐城スレートについて審査の結果下の通り証明書を発行した。

優 良 証 明 書 26年度第7号

1. 品名 波型石綿スレート（水圧機に依る加圧製品）

1. 製品社名 磐城コンクリート工業株式会社大阪工場

昭和27年2月8日提出された資料につき本会建材審査委員会に於て審査の結果此製品は別記特徴に依り優良と認める
昭和27年3月11日

特 徴 概 記

1. 山が高いので水排きと強度は有利である
2. 標準規格と比較して強度は非常に強いので裏板を必要としない
3. 重量が比較的軽い
4. 以上の結果に依つて施工は能率化される
5. 吸水度が少い
6. 耐久度が高い

以上
社団法人日本建築協会々長
同上建材審査委員会委員長

竹 腰 健 造
置 塩 章

沖繩工事に關する講演と映画の会開催

沖繩に於ける米軍施設建設工事の情況につき各専門関係者によつて下記の通り講演並びに映画の会を開催しますから多数御申込下さい。

1、日 時 4 月 22 日（火）午後2時開会

1、会 場 大阪建設会館2階（天神橋南詰・大林組西隣り）

1、演題と講師

- | | |
|-----------|---------------------|
| ◎ 沖繩の一般近況 | 株式会社 浅 沼 組 |
| ◎ 施 工 法 | 株式会社 松 村 組 |
| ◎ 衛 生 設 備 | 株式会社 三 晃 商 会 |
| ◎ 電 気 設 備 | 栗 原 工 業 株 式 有 限 公 司 |

1、映 画 （天然色映画による沖繩の近況） 株 式 有 限 公 司 浅 沼 組

1、申込 締切 4 月 21 日までに御申込み下さい

昭和 27 年 4 月 1 日

社団法人 日 本 建 築 協 会

工 事 請 負 契 約 約 款 頒 布

学会、旧土会、全国建設業協会、建築協会四会連合協定の上記約款は中央建設審議会決定の民間建設工事標準請負契約甲と同一内容であります。この約款は本会本部並に東海、京都、兵庫、和歌山、広島、福岡の各支部に備へておりますから精々御利用あらん事をお奨めいたします。

1 部 30 円 送料実費で頒布いたします

日 本 建 築 協 会

会 告 慰 靈 祭 挙 行

前月号で予告いたしました物故会員慰霊祭を下記の通り、挙行いたします。遺族の方も既に80余名御列席の通知を得て居りますので当日は何卒万障繰合せ多数御参拝下さいます様御案内申し上げます。

尙本会告を以て御通知に代へますから御諒承願ひます。

式 典 次 第

1. 日 時 4月26日(土) 午後1時30分までに集合一凡そ4時頃閉式の予定
1. 祭 物 大阪中央公会堂三階小集会室(中之島公園)
市電淀屋橋又は北浜2丁目下車(入口は公会堂南入口・榎植木橋北詰)
1. 慰 霊 祭 神式により挙行
昭和27年4月1日

日本建築協会会長 竹 腰 健 造
記念事業委員長 東 畑 謙 三

下記物故会員の御遺族氏名並びに御住所御存じの方は誠に御手数ですが至急本会事務局まで御知らせ賜らば幸甚に存じます。

物 故 会 員 氏 名 (敬称略・五十音順)

安 井 石 小 折 葛 木 黒 高 雑 塩 多 谷 塚 鳥 西 平 福 古 三 安 好	藤 上 田 沢 居 野 内 田 阪 賀 崎 賀 隆 安 越 野 富 橋 好 喜 田 保 井	春 由 義 意 壽 一 定 浩 辰 之 政 鈴 隆 良 春 野 清 御 三 喜 保 博	雄 平 雄 一 介 郎 雄 雄 夫 助 彦 夫 治 一 夫 等 九 郎 蔵 明	足 伊 稻 小 加 上 木 小 合 酒 下 伊 達 寺 中 根 平 藤 前 官 藪 米	立 藤 井 関 藤 上 村 嗣 田 勝 井 藤 高 多 敬 三 英 繁 松 井 田 川 久 倉	助 蔵 夫 一 雄 夫 雄 精 一 郎 三 平 一 郎 夫 士 吉 三 韻 蔵 郎 威	鮎 池 猪 大 鍛 亀 貴 小 佐 桜 杉 高 谷 永 長 福 藤 松 村 山 渡	川 榮 幸 杉 治 山 寅 宝 院 林 堅 竹 信 井 督 本 利 坂 野 房 川 真 井 房 一 重 太 井 清 足 小 田 小 田 武	荒 生 今 大 柿 川 久 五 佐 真 蘭 竹 内 谷 富 南 服 福 藤 松 毛 渡	木 種 井 西 本 勝 留 島 藤 田 部 村 仙 万 井 阡 見 利 名 渡	大 治 雄 二 治 二 文 雄 二 正 茂 市 吉 治 郎 次 郎 裕 夫 雄 郎 介 治	荒 石 上 大 勝 川 黒 児 沢 田 武 玉 友 西 檜 福 船 松 森 山	木 賀 田 松 野 沢 玉 廣 藤 田 中 富 川 尾 垣 島 本 本	正 忠 一 郎 之 次 郎 平 造 研 太 郎 孝 一 三 一 治 薫 亮 弘 三 晋 太 昭 修
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-------------------------------------	---

九州方面見学会開催予告

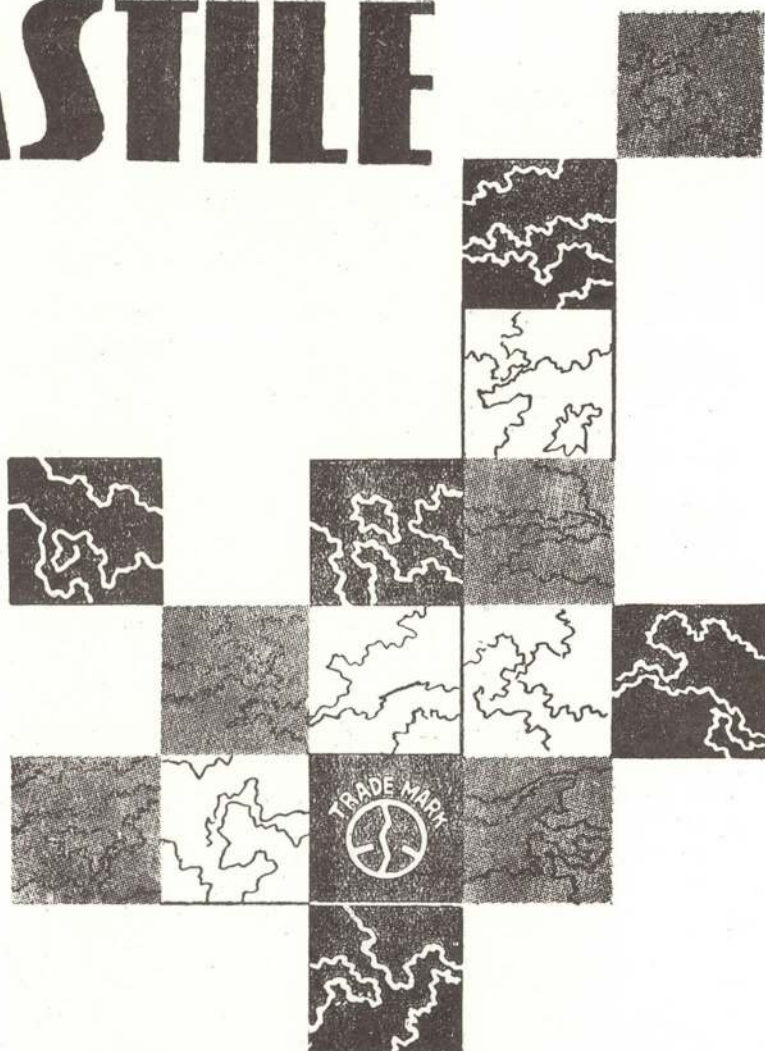
記念事業の一つとして今般下記により九州方面の見学会を企画しております。準備の都合上予め参加希望者を募ります(詳細決定の上参加希望者に連絡いたします)希望者は下記要領により4月25日までに申込み下さい。

建築関係工場、各地建物、原爆地長崎の復興状況、其他国宝天守堂、崇福寺、戦時中軍艦島と称され視察の出来なかつた端島(現三菱高島鉱業所)史蹟等見学すると共に中国、九州方面の会員各位と交歓を目的とした見学を催す。

予 定 ス ケ ジ ュ ー ル

1. 期 日 5月15より 3泊5日の予定
1. 見 学 大竹、新光レイヨン工場合成樹脂製造状況、下関、東洋一と称される太平洋漁業冷凍工場、小倉、東洋陶器株式会社工場、長崎、古建築、軍艦島、原爆地復興状況等予定
1. 会 費 未定なるも大体6,000円位を予定(3等大阪—長崎片道汽車賃、急行料、宿泊料、中食、バス代共)但し希望の向には申出により汽車2等に変更方取計ひます。(途中参加の方は実費)
- ◎ 最終地長崎で解散後自由行動とし希望者数班に別れ、天草、雲仙、阿蘇、別府方面見学を予定している。
1. 予約申込 正式決定は後日改めて詳細連絡するが準備の都合上予め参加希望を募る。
(但し予定人員に達したとき締切りますからお含み願ひます)

ASTILE



アスタイル は素晴らしい成長をしております

- A. アスファルトの耐温性と耐磨耗性
- B. アスベストの不燃性と耐腐蝕性
- A+B. アスタイルの強靱性

此れらの基本的な要素に色調、感触、そして低廉な価格とに依って
在來の床材の大多數の欠点を解決しております

藤森工業株式會社

東京都中央区日本橋通1の2西河岸ビル

総販賣店 藤森建材株式会社

電話 日本橋(24)5537-8

大阪営業所 大阪市東区今橋2-37(富田薬品内)

川崎工場・静岡工場

電話北浜(23)3984-6

株式會社
不二屋心齋橋店

設計
レーモンド建築設計事務所

施工
株式會社 大林組
暖房工事 第一企業株式會社
電気工事 大阪電気商會
衛生工事 須賀工業株式會社
家具工事 内外木材工業株式會社他

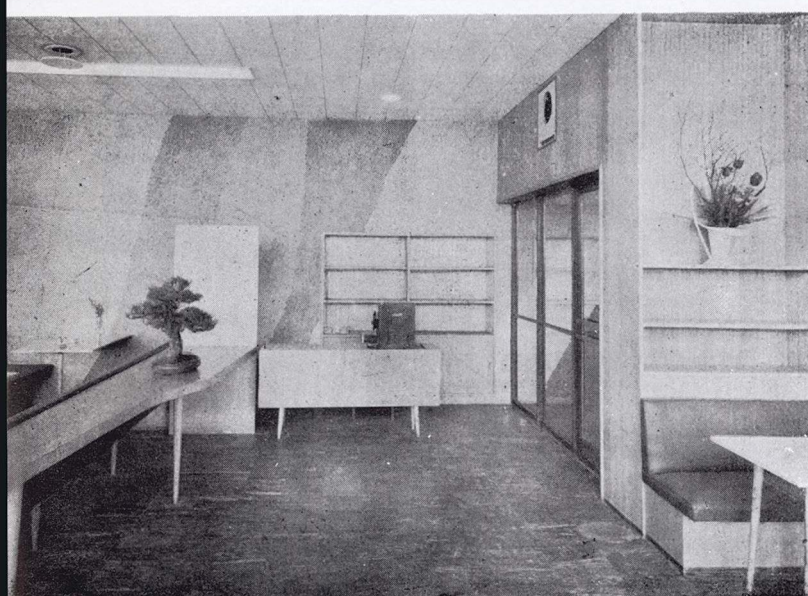




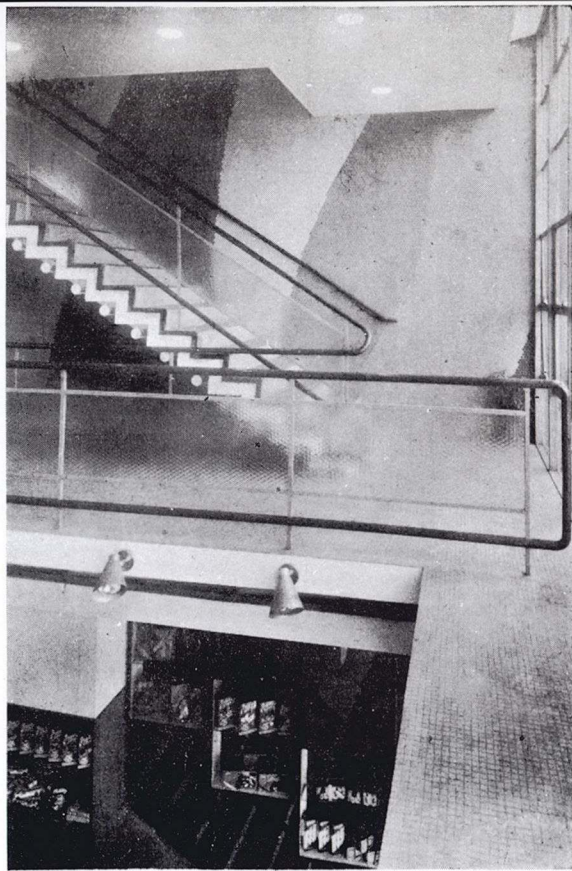
一階喫茶室



二階レストラン
カウンター



二階レストラン入口



2階より3階へ

賣店より2階への階段



3階集會室待合室

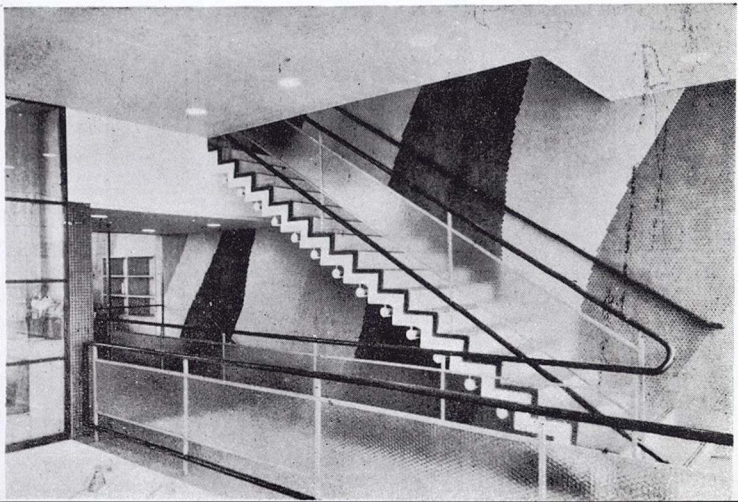
工 事 概 要

基礎 鉄筋コンクリート **主体** 鉄筋コンクリート **屋根** 陸屋根
外装 正面（西側）及袖壁廻りモザ
 イックタイル貼、其他コンクリート打放し。**内装** （床）賣店、喫
 茶室、廊下テラゾー塗真鍮目地入、食堂ゴムタイル敷、便所タイル
 敷、其他人造石研出シ及タミ敷等（腰）喫茶室、食堂ベニヤ板張
 及モザイックタイル貼、調理室、便所タイル貼、階段室腰（手摺）
 人造石研出シ（壁）和室ベニヤ板張、階段室、其他モルタルペンキ
 塗、喫茶室、食堂、柱型、モザイックタイル貼（天井）喫茶室、食
 堂ファイバートーン、アコステイカン天井板貼、賣店鐵板ペンキ塗
 調理室、便所、板張ペンキ塗。

面積 地階 30.679坪 1階2階3階 92.986坪 塔屋 0.972坪
 合 計 310.609坪。

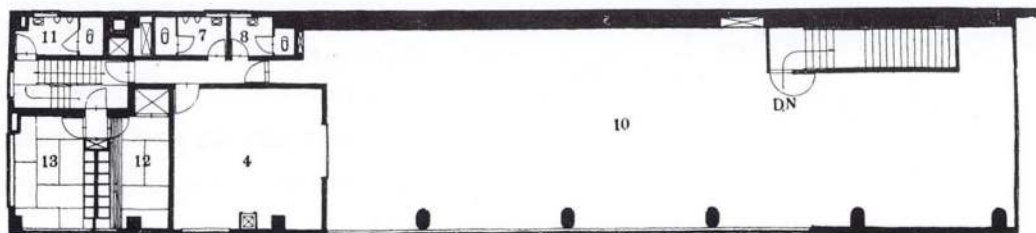
軒高 38.6尺

2階より3階へ

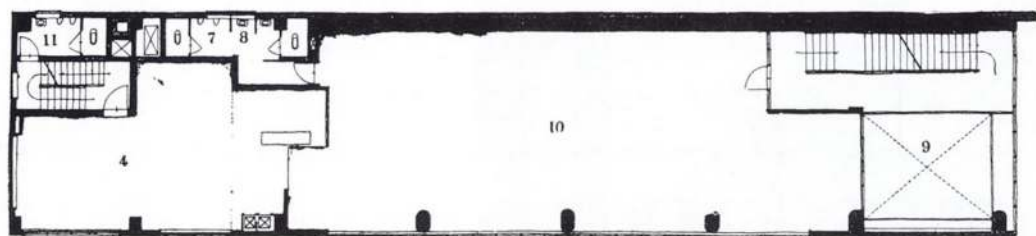




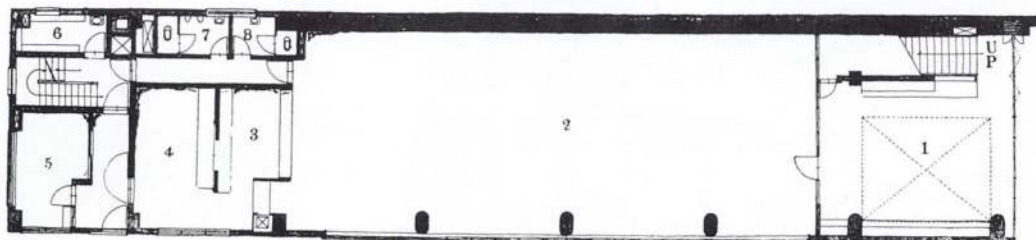
二階レストランより賣店部吹抜を望む。



三 階



二 階



一 階

平 面 圖 説 明

- 1 フロントショップ 2 喫茶室 3 配膳室 4 厨房 5 事務室 6 貯蔵室 7 紳士便所
8 婦人便所 9 吹抜 10 レストラン 11 使用人便所 12 男子更衣室 13 女子更衣室 14 屋階 15 ベントハウス



國際見本市會館

位 置

大阪市東區內本町橋詰町58

設 計

大阪府建築部營繕課

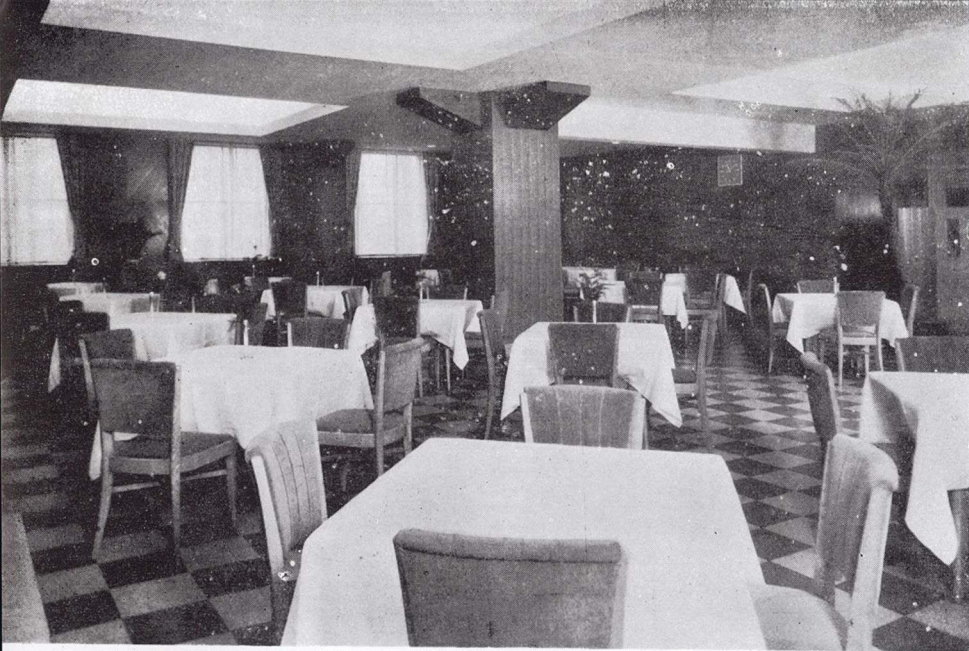
施 工

(主体工事) 大林組 (電気設備) 工藤電気 (衛生冷暖房) 須賀工業 (升降機工事) 日立製作所 (厨房設備) 日厨工業 (洗濯設備) 北村鐵工所 (家具設備) 高島屋・大丸・松坂屋・三越・七洋木材工務・旭木工所・内外木材・清水製作所・大和工業 (カーテン工事) 龜井株式會社。

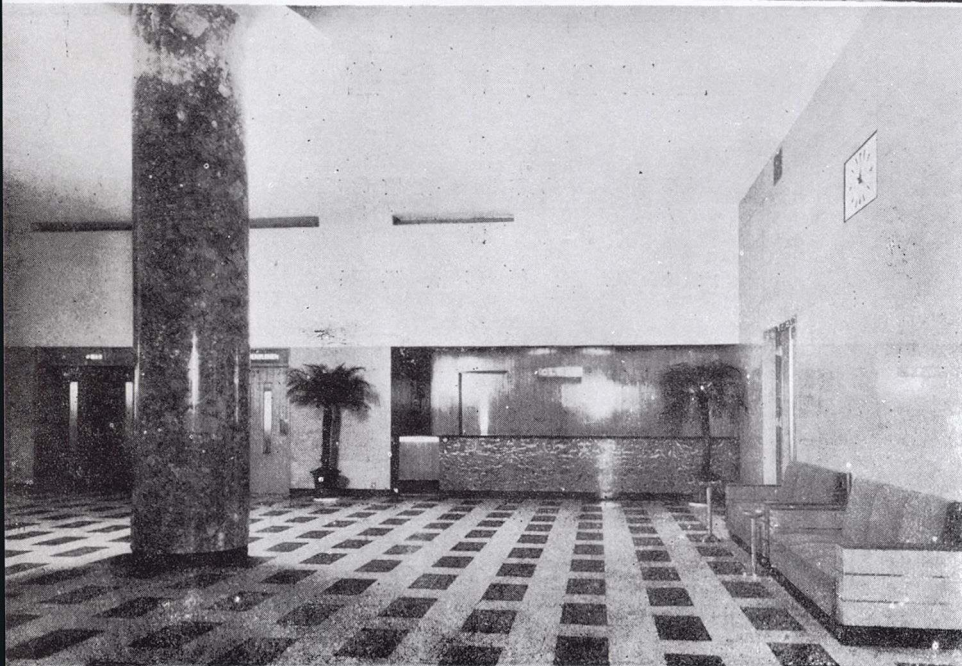
構 造

鐵骨鐵筋コンクリート地上7階、地下2階 (地2階及7階は中2階付)





食 堂



7階宴会場ホール



地一階バー

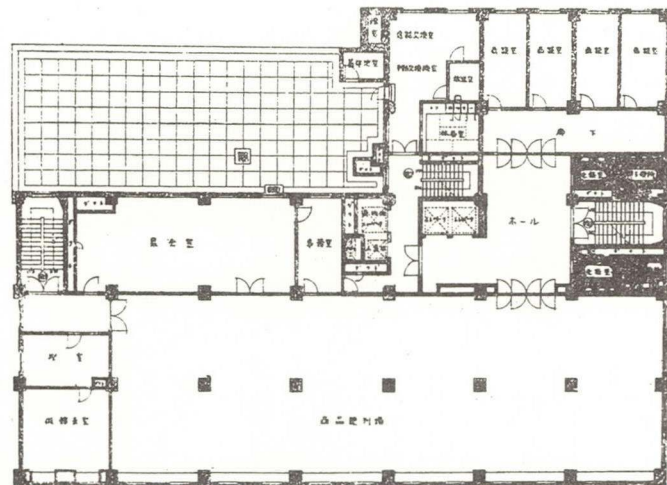
建 築 面 積

建坪 410.016坪 延坪 3,690.223坪

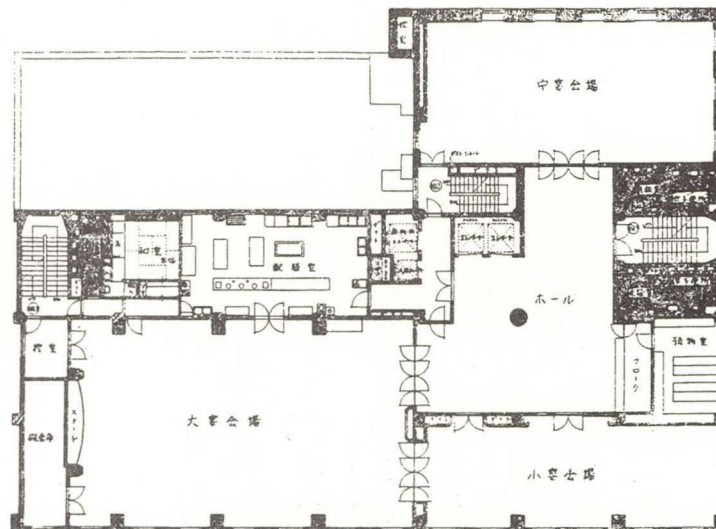
外 装

正面及び南面タイル張但シ正面一階部分花
崗石張、庇裏モザイクタイル貼、東北面色
モルタル吹付仕上、外窓鋼製建具ペンキ塗
仕上 窓枠テラゾーブロック 屋上アスフ
アルト防水モルタル塗仕上。

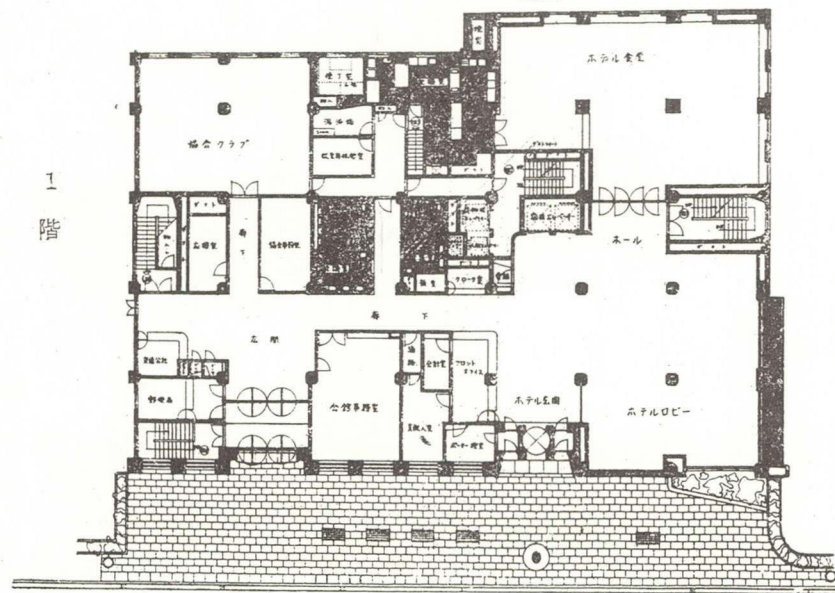
2階



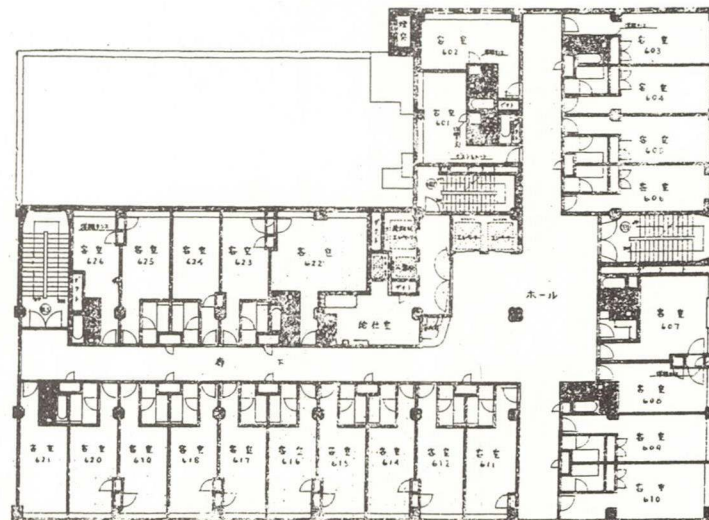
7階



1階



5.6階



国際見本市会館平面図

朝日放送演奏所に就いて

松 室 重 真

演奏所は大阪市北区中之島3丁目3、朝日会館3階に設置された。民間放送の演奏所としては都市の中心部であり、又、朝日新聞社の社屋が近い等広告主にとっては極めて便利な環境にある。併し一面色々の騒音を醸成されるから防音構造は一層完全なものが必要となつて来る特に演奏所直下は新聞社の輪転機があり建物より伝導される響音即ち構造主体を伝達する振動及び振動に依て発生する響音が甚しく更に演奏所外よりの空気伝達音がある為雑音遮断に対しては設計施工共相当困難な工事であったが結果としては初期の目的を達成した。

1. 概 要

設計昭和26年5月下旬 着工昭和26年7月中旬 竣功昭和26年10月 演奏所設置面積250坪72既設建物3階

所 要 室	用 途
第1演奏室	小人数のオーケストラホール及軽音楽 ドラマ用（洋楽）
第2演奏室	軽音楽、ドラマ用（和楽）
第3演奏室	科白用、講演用
第4演奏室	主として講演用
第5演奏室	同 上
副調整室	演奏室の各マイクロフォン出力を電氣的に音量及音色の調整をする
指揮室	演奏室の各マイクロフォン出力をミックスする等の運行監視に当る
主調整室	副調整室より送られて来た電氣的調整を超短波にて送信所に送る
録音室	副調整室より来たものを録音する
録音編輯室	録音の編輯をする
前 室	演奏室の連絡室（遮音段階）
客 席	スポンサー観覧席
ホ ール	談話、待合室用
控 室	演奏者、待合及談合室
事 務 室	放送課用

2. 平 面 計 画

演奏所は既設朝日会館のオーディトリウムを、ラヂオ劇場として一般公開用を使用することを前提とし、これに加えて今回の演奏室5室を設けたものである。演奏所玄関は在来朝日会館のエレベーターを主要通路としエレベーターホールに來客用携帯品預り所を設け、続いて玄関ホール受付を有しこれより演奏者及スポンサー等の観覧者の入口と一般用度関係來客者の客溜り入口及び各放送

関係、技術関係等事務室のある朝日ビルへの連絡口に通じる。

ホールは観覧者の接待、休憩を兼ねた応接室の性質を多分に持ち、ホールより前室を通じて演奏室に行く又演奏者控室、事務室に接し廊下を通じて技術関係室（主調整、録音室）に続く。

演奏室は各室共壁面は平行面を避けて不整形室を取つた、演奏室への出入口は空中音の消音間隙帯として前室を平面計画上最小経済面積に取り二重の防音扉を設けた。

副調整室、客席は防音硝子窓より演奏室内の中心部が視界に入る様に設け、特に指揮室は第1演奏室と第2演奏室の中間に設けて各マイクロフォン出力をミックス出来る様にした。

主調整室、録音室、録音編輯室は外來客の動線を選けて配置した。

3. 防 音 構 造

平面計画に於いての事務室系統と、演奏室系統との2ブロックに大別し、演奏室ブロック外郭は鋼筋コンクリート間仕切壁厚5寸としたブロック内各間仕切壁厚も4寸及5寸とした、特に在來外壁に接する箇所では在來窓開口の部分はサツシュ内面に「規格型式鋼筋コンクリートブロック」をし採用更にその内側に厚5.0寸の鋼筋コンクリート壁を設けた、天井面に対しては特に上階が劇場の為在來コンクリート床厚5寸とは別に更に演奏室天井をコンクリート厚4寸に設け、施工困難の部分は鉄骨下地、リブラス張モルタル塗、厚2寸として二重天井にした。

次に演奏室内部の防振防音構造には今回朝日放送演奏室の構造の特長として考えられる浮遊式防音構造を施した、即ち床は昭和電線電纜株式会社の防振ゴム台を使用して大曳下にこれを所要荷重を考慮の上在來床に取付け大引根太を架け杉板一重張りとしその上にアスファルトフェルトを敷きモルタル厚1.0寸塗立て更に転根太を設けテックスを敷込み堅木フローリング張りリノタイル敷とした、防振ゴム台部分の浮遊空洞部には防水加工の岩綿を敷込んだ。

壁は特種支持金物に防振ゴム台を用いて主軸柱に取付け間柱胴縁組込みの上岩綿板（ロックワール板）2吋厚を嵌込み内面にベニヤ板厚3分2枚、毛毛セメント板厚4分半目地を避けて張立て毛毛セメント板にモルタルを目

止め程度に塗上げた、この構造は特に低減周波数の音に對する遮音に有効である。

天井の遮音も大体壁体と同様の工法にて特に防振ゴム台を金物にて圧縮側に働く様に釣込み浮遊した。他は壁と同じであるから省略する。

4. 扉及窓の遮音構造

平面計画に於いて前室を設けてこれに消音地帯とも言ふ可き性質を持たし、従つて扉も前室の出入口はすべて防音扉とした、(演奏室については二重防音扉となるわけである) 前室の仕上も床は板二重張り絨氈敷、壁テックス下張りの上鑽孔せるサンライト板を張り天井は岩綿板(ロックウール) 張りの上サンライト板に約3割面穿孔したもの(ハンチング・サンライト)で張上げ仕上げた。

扉は扉自体の透過音減衰の為に吸音材岩綿板(ロックウール)を二重に重ね其の中間に密度の違つた剛度の高い材料として亜鉛渡鉄板及テックスベニヤ板等も挿入した。

扉表面は前室側はベニヤ板の上にフェルト・ビニロンレザーの順に仕上げ、演奏室側は室内の音響設計上ベニヤ板張り仕上としている扉と枠の接触面は枠側フェルト張とし戸当り召合せ部にスポンヂゴム裏のビニロンレザー帯及踏踏は牛皮革を用い、扉框側はフェルト下張りビニロンレザー張りとして屈折面を作り開閉に不自由ない程度に気密な構造にしている、勿論枠、框等は朴材の組合せ別物である。

窓は客席、副調整室、指揮室と演奏室間の防音窓にて全部嵌殺してある、窓枠は扉枠と同様にて枠も浮遊部のパッキングに牛毛フェルトを用いて絶縁を施し窓枠と硝子との取付部分は出来るだけ気密にすると共に枠内面は羊毛フェルトを以つて張り硝子決り部は羊毛フェルトの上プラステックスポンヂパッキングを嵌め込んである。窓硝子自体の遮音は厚さの異なる磨硝子(6耗厚、9耗厚、12耗厚)を三重とし各硝子の間隔を変えて共鳴音を防いだ、又演奏室側の硝子は傾斜させて(約10度)相対面とに起る反射定常波の防止を行つた。

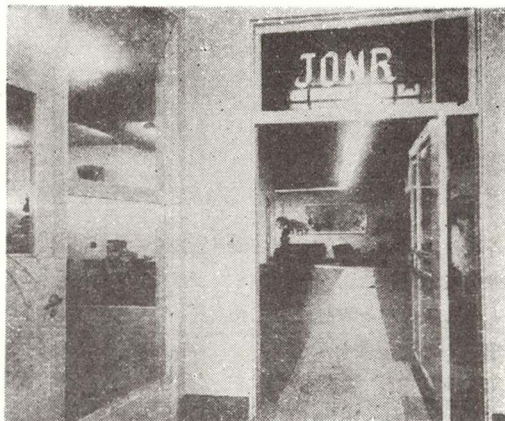
後日の測定の結果音源を演奏室外の前室を隔て、ホールに置くと(即ち防音扉二枚を経ると)演奏室内にては800サイクルで100db前室内、防音扉一枚で50dbで防音窓は50dbの遮音率を得た。振動は測定の結果階下の輪転機の振動が主であるが、演奏室に対しては何等影響はない。

5. 演奏室内装

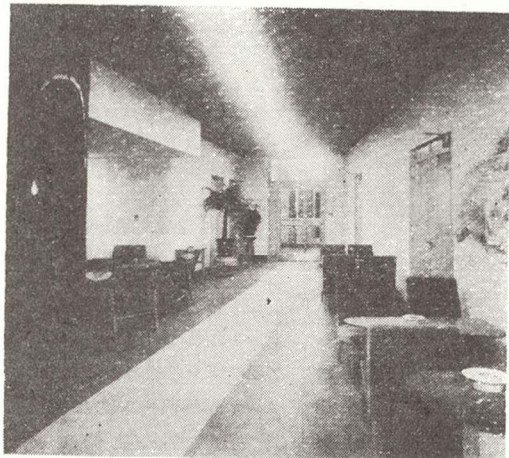
演奏室形態は相対面とに起る音の反射による定常波を防止する為に矩形を避け又部分的に拡散壁面を設けた、天井も既設建物を使用したため非常に低く制約されたが特に第1、第2演奏室は鋸歯型に設け、且つ傾斜面の平行を避けて出来るだけ変化に富む様に計画した。

室内仕上げ材料使用方針を要約すれば

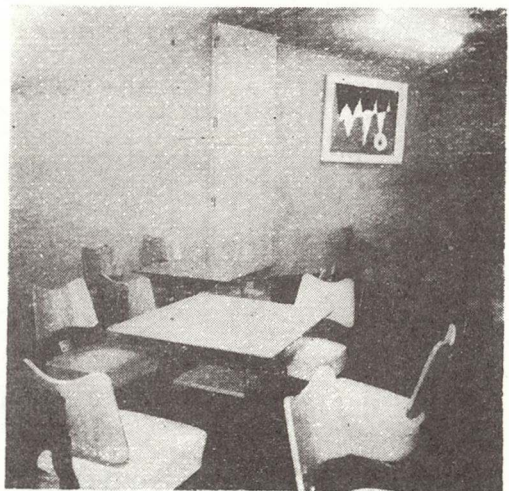
低音域の吸収を図つてベニヤ板の膜共振を利用しポリシリンダーを壁面に取り付けた、中音域及び高音域の吸収の為に岩綿板(ロックウール)を色々の距離に配置した。



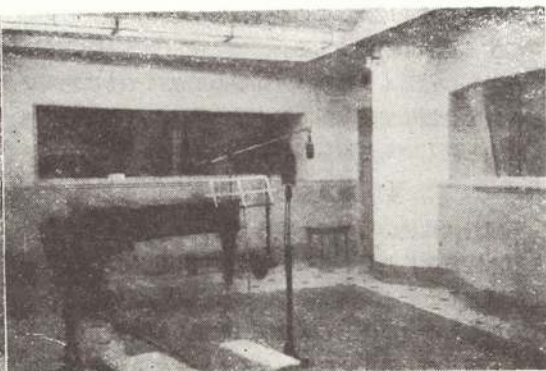
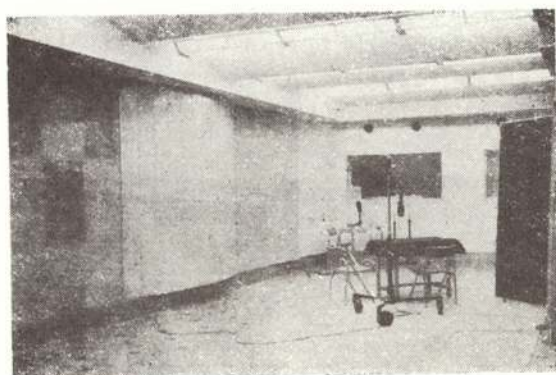
玄關よりホールへ



ホー ル



演奏者控室



外観の仕上を良くする為と後日壁面の清掃等に付いて
支障を来たす様な材料を避けサンライト板を（穿孔され
たもの）張りベニキ仕上とした。

演奏室内の仕上表を示すと

第1演奏室 室容積233m³ 床面積1007m² 天井
面積103 壁面積141.5m²

仕上箇所	使用面積 (平方米)	使用材料
床	100.7	フローリング張下地リノタイル貼
天井		ロックウールテックス下地ベニヤ板厚10耗水性ベニキ仕上
壁	34.02	ベニヤ板張（ポリシリンダーを含む）薄膜ニス仕上
〃	7.19	ロックウール下地ハンチングサンライト（穿孔）油性ベニキ仕上
〃 天井	57.99	テックス下地ベニヤ板厚10耗油注ベニキ
〃	7.19	テックス下地穿孔サンライト仕上
〃	14.16	プラスター油性ベニキ仕上
扉	6.23	ベニヤ板薄膜ニス仕上
窓	19.84	硝子
第2演奏室 室容積125.4m ³ 床面積41.8m ² 天井面49.8m ² 壁面積89.1m ²		
床	41.8	フローリング張下地リノタイル貼
天井	57.54	テックス下地穿孔サンライト水性ベニキ仕上

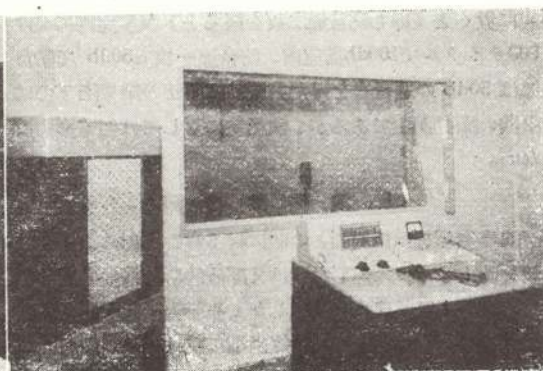
壁	25.48	木毛セメント板（プラトン） 下地床の素孔テックス油性ベニキ仕上
〃	23.01	プラトンスレート（有孔）油性ベニキ仕上
〃	9.31	ベニヤ板布張りラツカー仕上
〃	10.01	ベニヤ板張り（ポリシリンダーを含む）薄膜ニス
扉	5.19	ベニヤ板薄膜ニス仕上
窓	8.4	硝子

註 上記材料中穿孔サンライトとは厚1.3分のサンライト板に径5耗の孔を15耗ピッチに穿孔したもの。
ハンチングサンライトとは厚1.3分のサンライト板に径9.5耗の孔を15耗ピッチに穿孔したものの仕上塗炭には各仕上共薄膜に仕上した。

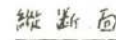
残響時間は

第1演奏室 1, 秒 第2演奏室 0, 6秒 第3演奏室 0, 4秒 第4, 5〃 0, 2秒 副調整室 0, 2秒

と設計した、竣工後NHK技術研究所の測定の結果より検討すると第1演奏室は当初計画した時、通常の演奏室では低音域では中音域より残響時間が長い事を注目しポリシリンダーを相当動かして各域共レベルになる様にしたが、測定の結果各仕上材のパネル振動に依りむしろ低音域にて低下したので、特性の修整が簡易になった、以上の結果、演奏室に必要な絨氈敷、收容人員によりはゞ特



防音窓詳細





録音室

性が平坦になつた。第2演奏室も第1演奏室と同様で此の場合は壁面パネル振動を制動して第1同様に特性を平坦にして成功した。

第3、第4、第5副調整室は予定通り満足すべき特性を示した。音場分布に付ては簡単に結論が出ないが、同容積の整形室と比較して伝音特性として好ましいと測定の結果報告された。

6. 換気設備

高砂熱学工業株式会社による。ヒートポンプ式温湿度調整装置を採用し機械室は別建物に設置した。

機械室関係では室内に送入する空気は空気洗滌器、空気冷却及加熱器並空気再熱器を通過せしめ、空気発却及加熱器には冷凍機の蒸発器を通じて冷却せる冷凍水又は冷凍機の凝縮器を通じて加熱せる温水を循環せしめ、空気再熱器には凝縮水を循環させた。

冷却塔は外気に依り冷凍機凝縮器より生じたる温水を冷却せしめ或は蒸発器より生じたる冷凍水を加熱せしむる様にされてある。演奏室関係は冬季にても高温となり、常温を保つ上には、事務室関係は暖房しながら他方にて冷房を要する場合があるので両者を同時に操作し得る様又切り替も可能な様に二系統とし、建物内は事務室天井内に使用室系統毎及び給排気管毎にエアーチャンバーを設け機械室より特殊防音装置をなした風導管により接続し、所要目的室へロククウル帯を周囲に巻付け防音

及保温をした径7吋～5吋のゴム管にて導いた。更に吹出口は高砂式渦巻型消音装置を取付け各室相互間の音響の交流を防止した、且浮遊した壁体には「キャンバス」にて接続し振動に対しても考慮した、室内還流排気も1吋厚2枚の「ガラスウール」のフィルターを挿入した竣功後演奏室相互間の遮音測定には100db以上の遮音率を上げ好成績であつた。

7. 照明設備

各室内の照明には、螢光灯照明を全館に採用した、螢光灯は200ボルト三相三線式とし、非常灯を設けて交流停電の際自動的に切替接続される様直流100ボルト電池を電源として配線した。照明に関係してホール色彩は落着きある感じを出し、照明を柔かにし、器具も天井埋込式ルーバーとした。

前室、調整室等は機能を表示した簡潔な色彩と天井直付環形ルーバー器具を付けた。演奏室は埋込式と光樋式とを採用した。

第1演奏室では、洋楽を主する故大胆な配色で調和を求め机上照度は800ルクスになる様第2演奏室では和楽を主とする故優雅な色彩を選び、第1演奏室同様机上照度は800ルクスに設計した。

各演奏室の照明器具は音響的の考慮から厚5耗の縞硝子を用い枠金物も比較的大きくなつた。荷背面にはロククウルを充填している。螢光灯点灯用チョークコイルは別の個所に設置し電磁的に絶縁を計つた。

各器具ランプ共に東京芝浦電気株式会社製品で、40ワット白色螢光ランプである。

以下照度を簡単に記すると。

室 各	器 具	ランプ数	照度ルクス	適 要
第1演奏室	4 灯用光樋式	7 2	床面 480	
	2 灯用埋込式	1 2	机上 800	
第2演奏室	3 灯用光樋式	5 4	床面 500	
			机上 1000	
前 室	二灯用環形ルーバー	8	平均 150	
ホ ー ル	二灯用埋込ルーバー	2 6	平均 300	
客 席	一灯用光樋式	3	平均 80	演奏室との比は約1:10

註 ランプは40ワット白色螢光ランプ

結 び

以上簡単に概要を述べた、短期間の本工事に於いて終始朝日放送技術部及NHK技術研究所の御指導と御便宜を頂いたことを厚く感謝致します。又竹中工務店、高砂熱学株式会社、其他工事関係者各位が酷暑の中諸種の困難を排し克く協力してこの特殊な工事の完遂に御援助下つたことに對し深く感謝の意を表する次第です。

(筆者山下寿郎設計事務所)

ラジオ京都演奏室設計覚書

増 田 友 也

1. 経 過

昭和26年3月、京都新聞磯谷部長来室、ラジオ演奏室を含む新聞社拡張工事の下話。

昭和26年5月、設計々画開始。

昭和26年6月、中甸一般図完成。同時に計画変更。

昭和26年7月、旧第一生命京都支店（昭和初期完、設計松本与作氏）買収、改造に決定。

昭和26年10月、曲折を経て、改造案決定。

昭和26年10月、13日着工

昭和26年12月、竣工。坂大音響研究所に携る音響試験の結果良。

2. 工事関係者

設 計 京大坂研究室 担当 増田友也

施 工 主体工事、宝建設 内装工事鐘紡 建具工事匠屋 換気、衛生大鳥居工業所 電気工事、寿電気 燈具久保田商会 家具、大丸

3. 音

ラジオ演奏室の音の問題はまづ室の形態、特に巾、長、高の寸法比例についてである。今度の様に旧建物を利用してそれを最大限に使用すると言ふのでは計画上の自由度は甚だ少い。

常識的には巾、長、高のどれかを1とした場合にその他のものが整数でないこと、室の対応する面が並行でない方がいい、と言はれているが、そのどちらにも神聖質になる余地がなかった。

阪大音研の測定では、第一演奏室に減衰の紊れが少し、

第二演奏室では理想的な減衰曲線が得られた。

遮音については、吸音についてと同じ様に、材料に周波数別の性能差が有ることが考へられたが、それを突込むことが出来なかつた。それ故主としてKnudsenの Acoustics of Architecture に拠つたが適不満であつた。

吸音、つまり残響時間については、室の規模が小さい場合その容積が支配的 factor になると言ふことは Sabine 式を見ればあきらかである。したがつて正確な残響時間への期待は、建築計画に先立つ室の大きさの予定に依存するところが大い。

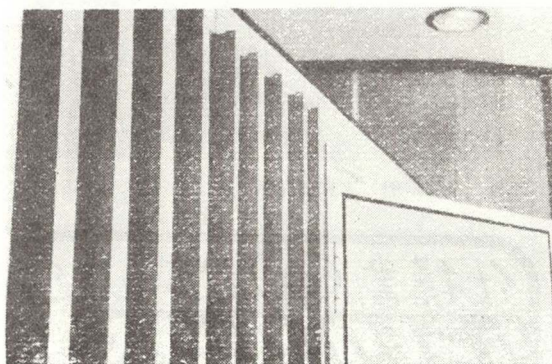
しかしながら一般にその聴取過程を考へると

劇場 演奏室 家庭

演奏—マイク—録音—再生—マイク—増巾—電送—スピーカアと言ふことになつて、建築のそれに対する寄与は劇場、演奏室、家庭の三つであるから、さう言ふ顧慮なしには音響処理は不完全とも言へやう。結局これは、市民の耳を正しく、美しい音に馴らせると言ふ音楽家の悲願に似たものであらうと思ふ。

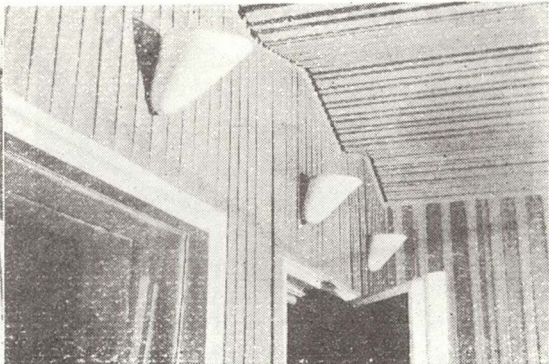
4. 意 匠

言ふまでもなくラジオ演奏室は商品としての音の生産工場であらう。アフォーリズムを弄しているわけではないが、甚だ人間的なしたがつてもつとも近代的な工場であると考へられる。そこで原材は人間である。人間を原材とする生産工場であると考えれば、演奏室の機能計画と言つてもおのづからある予定が立たうと思ふ。しかしまたそこがディスプレイの場となると言ふことで複雑になる。そこでシヨオの中心をどこにおくかによつて意匠



第一演奏室一隅

出入口廻り、コペンハーゲン・ウォールを試用（Architectural Review, Oct 51' Royal Music Hall 記事参照）



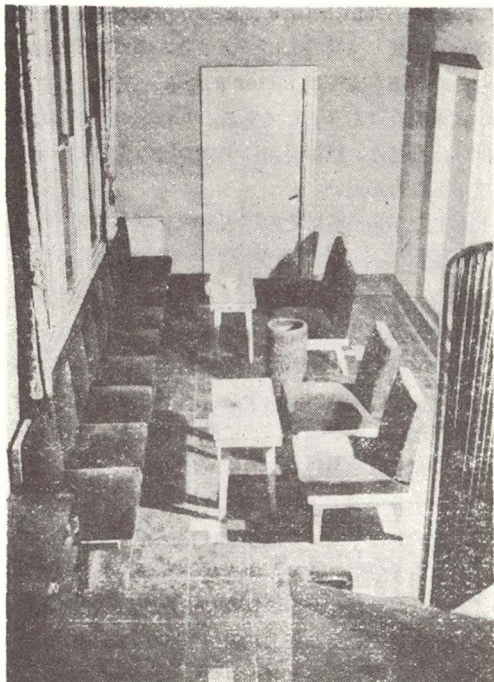
第二演奏室

天井 樫根打、象牙色オイルペンキ塗。壁 生別珍2〜3重ヒダ取り。巾木 黒ラツカア。床 シルバアグ レエ絨氈。燈具 象牙色ラツカア塗。

計画にもまた限界が考へられる。

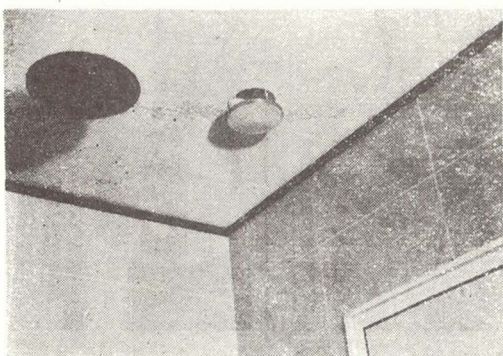
ゆくりなくも作者は舞台の金屏風の役割を想起していた。それは演奏している演奏家、放送しているアナウンサーをその仕事において重視する立場であるが、声の労働者諸君は必ずしも正装であるとはかぎらない。

目立たない、したがって醜悪でもない場所が、これらの労働のしづかな、出来れば心ゆくたかな場であり得ること以外に、作者にのぞみはなかつた。ともすれば逸脱しやすい建築性への執着を作者はそこに限つておいたつもりである。(筆者京大助教授)



2 階休憩室

床：黒ゴムタイル白模様抜き。壁：コルク吹付灰白色ペンキ塗。天井：吸音テックス白色水性ペンキ塗。家具：檜素地、裂地オールド・ロオズ色モケット貼

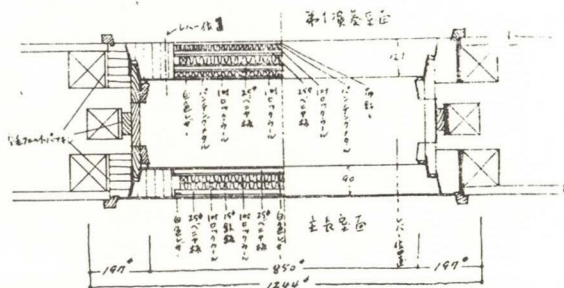


第3演奏室一隅

燈具：黒色ラッカー塗。給気孔：白色ラッカー塗。天井：吸音テックス 白色水性ペンキ塗。壁：生麻地、

第1演奏室及主調整室扉と枠詳細図

目地檜、白色ペンキ。廻縁、及巾木黒色ラッカー。床：シルバアグレエ絨氈。



下 第1演奏室

天井：吸音テックス白色水性ペンキ塗。壁：錆青色ナノコ織、裂地目地白ペンキ塗廻縁、巾木は黒ラッカー調音板は樺ベニヤ、フラッシュ透期ラッカー塗。床：濃青色絨氈。



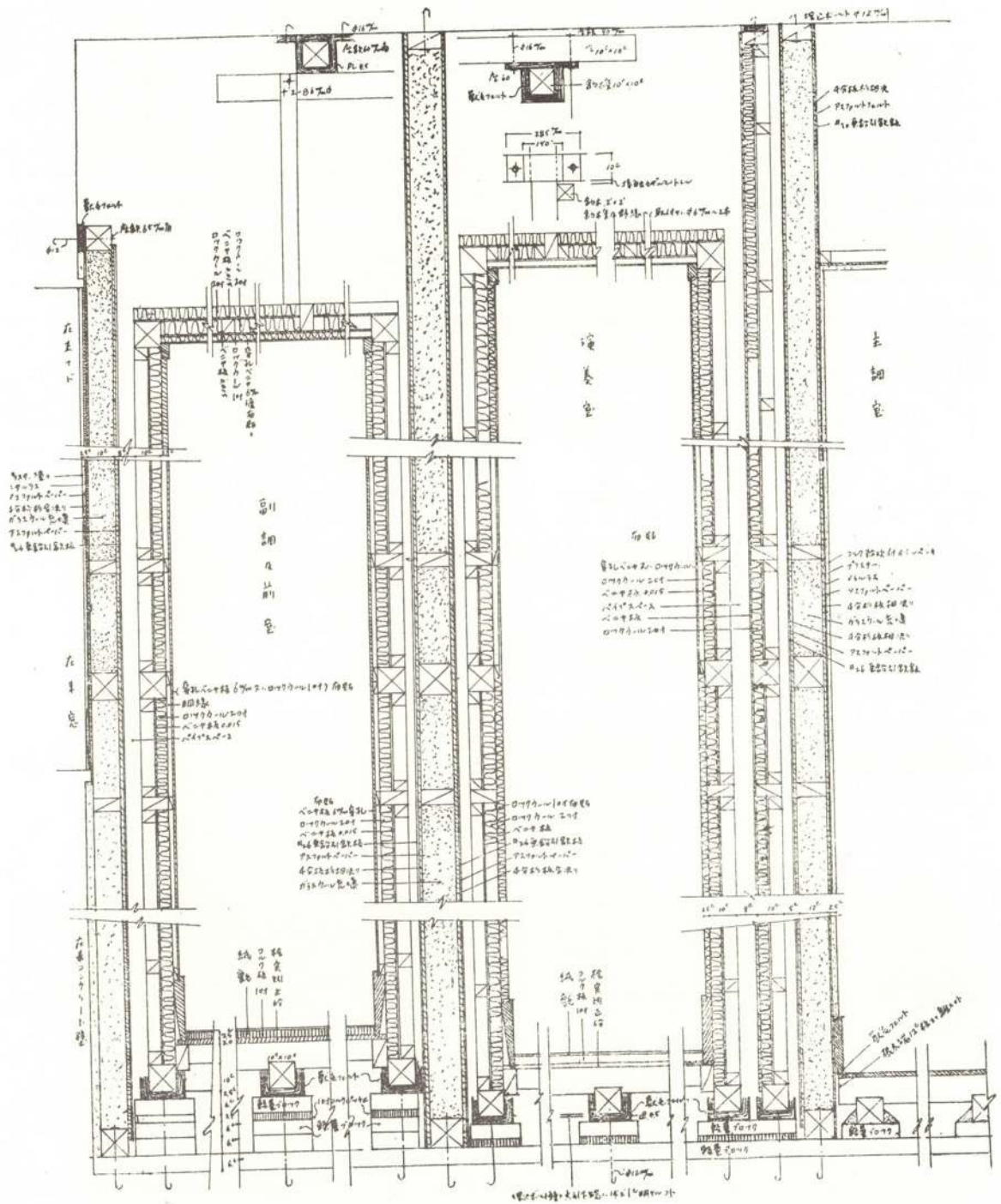
写真 京都新聞写真部提供

仕様書 12 床 お忘れなく

セントロ ワークス を!

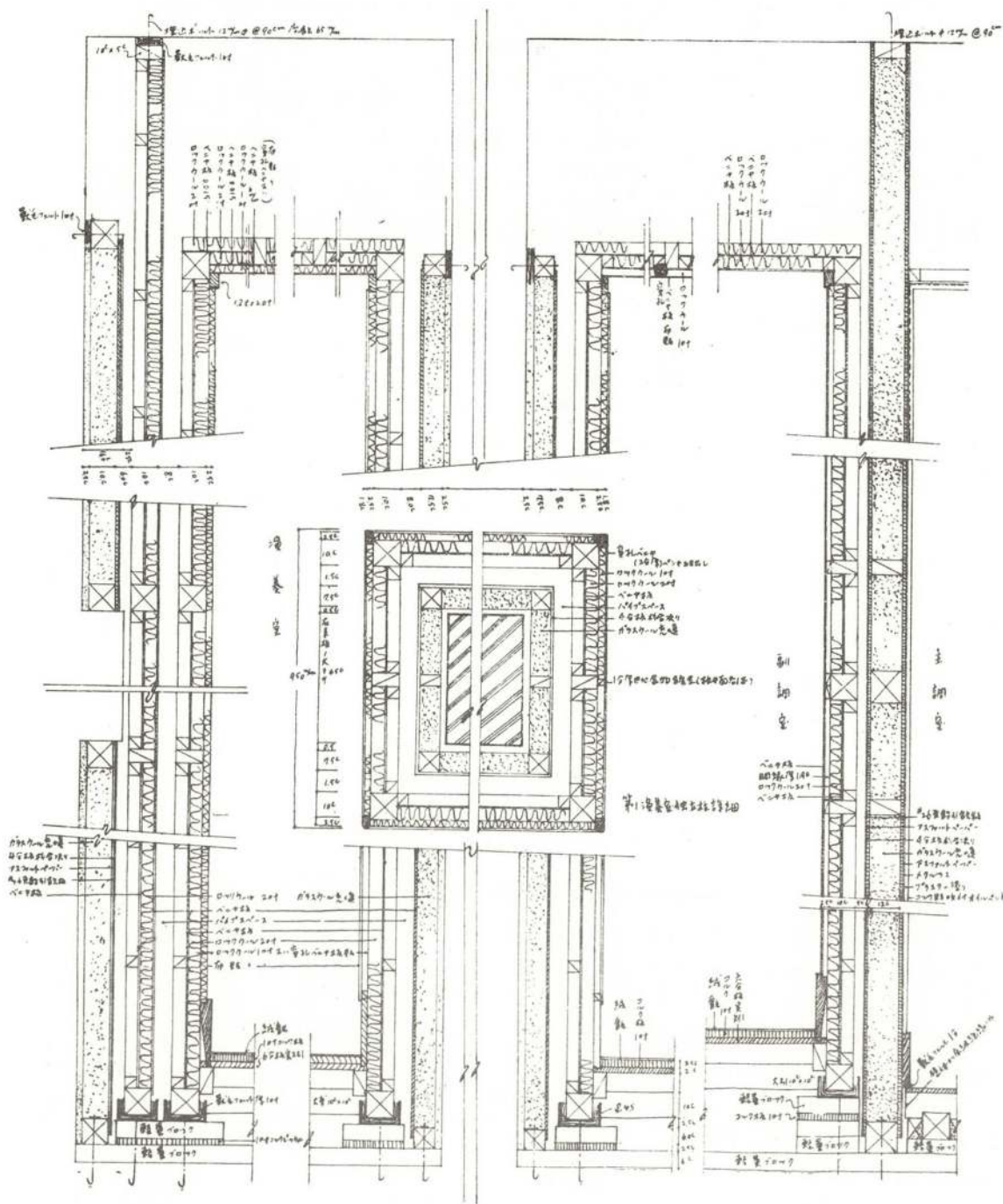
大阪 東區ガスビル裏	KKセントク	電北 濱(23)4905
東京 日本橋吳服橋2の3	光生産業 KK	電日本橋(24)2539
名古屋 駅前泥江町2の1	KKセントク	電本局(23)4578

KBCラジオ京都 一般詳細図



設計 京都大学建築学教室 坂研究室

KBCラジオ京都 一般詳細図



NJB新日本放送スタジオ総合音響測定報告

小 川 正

は し が き

昭和25年4月民間放送第一声を目ざして大阪駅前阪急ビル西館屋上に、許容荷重、屋上建築面積及高さ制限以内の条件にて、鉄骨鉄筋コンクリート構造による放送スタジオ建設工事に付いて、放送条件に必要にして適当なる環境を保持する為、施工期間中に、次の如き測定を行いつついわゆるTAILOR MAKING SYSTEMによつて完成されたものである。

以下この概要をまとめて報告書とする。

内外遮音・屋内騒音・建築振源より生ずる影響・残響修整等の資料を参考に供したい。本原設計に対しては早大・佐藤教授日本電気・田中博士測定に当つては武蔵工大・三木教授、阪大音研・牧田助教授、北村助教授の御指導御協力に対して敬意を表するものである。

第一回測定(目的)騒音測定

昭和25年7月30日 10~13時

測定者 武蔵工大・三木昭教授及阪大音研の協力

測定器 マツダ指示騒音計(IN-IA型)

日本電気2-A オーディオメーター

第二回測定(目的)騒音測定

昭和25年12月4日

(百貨店休業日) 同5日 10~16時

測定者 武蔵工大・三木昭教授、阪大・牧田康雄助教授及阪大音研の協力

測定器 マツダ指示騒音計(IN-IA)

日本電気2-A オーディオメーター

第三回測定(目的)騒音測定

昭和26年4月13日

測定者 阪大音研・北村助教授 指導

測定器 日本電気2-A オーディオメーター

日本電子測器 SI-I指示騒音計

第四回測定(目的)防音扉遮音測定

昭和26年5月12日

測定者 竹中工務店設計部(奥山・北村)

測定器 日本電子測器SI-I指示騒音計

第五回測定(目的)騒音測定

昭和26年5月22日

測定者 阪大音研・北村助教授 指導

測定器 日本電気2-A オーディオメーター日本電

子測器SL-I指示騒音計

第六回測定(目的)残響時間及び騒音測定

昭和26年7月26日~27日

測定者 阪大音研・北村助教授 指導

測定器 電磁オツシロ

日本電気2-A オーディオメーター

日本電子測器SL-I指示騒音計

騒 音 度

第一回測定結果(25.7.30)

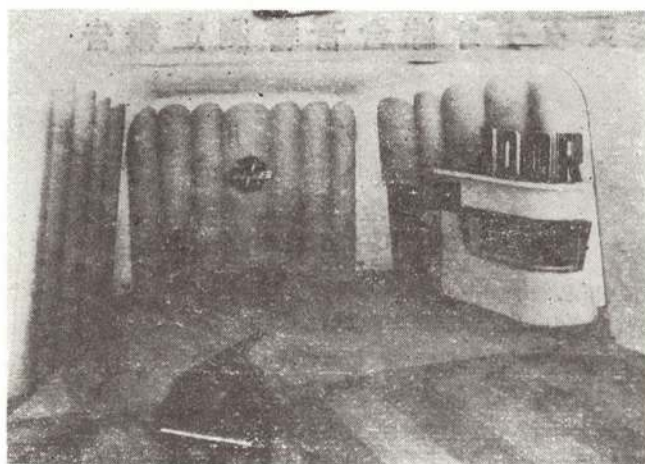
放送スタジオ外周囲の騒音度を示す(於立地位置)

騒音源	騒音度
正午のサイレン(阪急百貨店)	92 db
〃 〃 (鉄道局)	84 db
汽笛	78~74~73 db
汽車(ガードを通過するとき)	63 db
汽車(ポイントを通過するとき)	60 db
城東線電車が出る音	62 db
汽車電車平行通過音	62 db
本線電車駅構内に入る音	60 db
〃 汽車 〃 〃	60 db
市電警笛	60 db
暗騒音	56~58 db
暗騒音(特に静かな時)	40~44 db
飛行機の爆音	60 db
自動車の騒音	53 db

各スタジオのコンクリート殻(厚120mm)が出来上つたとき(25.7.30)第二スタジオを代表せしめて測定した。スタジオの開口部には杉6分板を太鼓張りとして中空部にオガ屑を充填し出来るだけ気密防音的とした当時の状態は各種の作業音とエレベーターによる騒音が相当侵入していた。

此の測定結果は

騒音源	スタジオ内の騒音度
正午のサイレン(阪急百貨店)	60 db
正午のサイレン(鉄道局)	55 db
歩行靴音	55~57 db
エレベーター騒音(max)	51~53 db
暗騒音	50 db



第一スタジオ内部

(ポリシリンダー反調調整室が見える)

以上の結果よりコンクリート壁 30db の遮音度又内部
吸音で15db 合計45db が壁の遮音度と期待された。

第二回測定 (25, 12, 4)

スタジオが一応は完成を見たのでスタジオの屋内各種
騒音源による影響を調査した。

(第1スタジオに関し)

エレベーター	30 db
コンバーター	30 db (300~700 ∞)
リレー	20~36 db
送風音	27 db (60~1300 ∞)
送風機	25 db (100 ∞)
エレベーターと送風	32 db
総合	33 db

以上の結果より固体音として伝つて来るものが壁体を
振動せしめ2次音源としての影響を発見し壁体の遮音
性と共にスタジオの残響時間を短かくして解決する方
法が考えられた。

(第2スタジオに関し)

エレベーター	12 db
コンバーター	ナシ
リレー	20 db
送風音	22 db (100~3000 ∞)
総合	23 db

(第3スタジオ)

暖房装置運転休止	} 0 db
エレベーター運転休止	
暖房装置運転休止	} 17 db
エレベーター運転中	
暖房装置運転中	} 5~6 db
エレベーター運転休止	

総合 20db 以下

(第4スタジオ)

第3スタジオと全く同じ結果

(第1スタジオ副調) 総合 23 db

(第1スタジオアナウンスブース) 総合 25 db

第三回測定 (26, 4, 13)

(第1スタジオに関し)

床フロートなし(オガ屑充填木製床の上にラバータイ
ル貼り)

フェルト仮敷 ステージは敷かず

防音扉改造前

機械設備防振装置なし

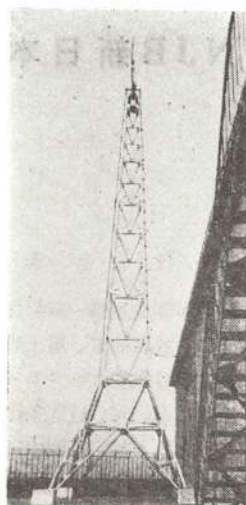
壁面コルクプラスター仕上(ペイント未完)

副調整室は側壁より突出していない(すなわち改装前
の状態に於て)

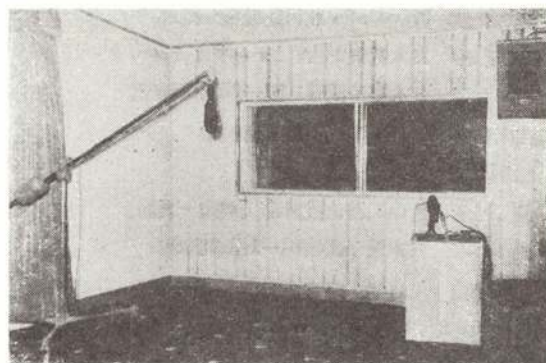
窓側壁の前面1mの位置にて

コンヴァーターの音	43 db
コンヴァーターの音	} 44 db
エレベーターの音	
コンヴァーターの音	} 47 db
暖房装置の音	

音響エネルギーの分布は150~350 ∞ 附近で最大、騒音
源は全部壁の振動による空気音の遮断は相当高い様で



送信所への超短波アンテナ



第二スタジオ内部

あつた、よつて機械設備に防振ゴムを振す計画を立てた。(昭和電線電纜KK製)

(第2スタジオに關し)

綜合 10~12db となりかかる騒音度の高い環境にあつて防音構造の相當の効果を上げている。

(第4スタジオに關し)

コンバーターの音 15 db

第四回測定 (26. 5. 12)

此の測定は扉の遮音度を測るのが目的であつた最初召し合はせ部分の密着が悪かつた為に遮音度は平均 25 db であつた此れを改造したる後は更に10db の遮音度を高め 35db となり此の防音扉を前室とスタジオに二重に使い 60 db の遮音度を充分に保持し得るようになった。

第五回測定 (26. 5. 28)

第三回測定の結果から機械設備に防振ゴムを附す計画を立て先づ試験的にエレベーターのコンヴァーター 1 基に此れを取り付けて第一スタジオの騒音度を測定した(使用防振ゴムME100)

第一実験 防振ゴムを付けない

コンバーター 1 基運転

第二実験 同型コンバーターに

防振ゴムを付け1基運転

先づ2~A オーディオメーターによる隠蔽法の測定結果は

第一実験 23db

第二実験 4~7db (一)

差 19~16db

片耳を第一スタジオの壁に付けて他の片耳をオーディオメーターのレシーバーに掛けて平衡法により測定

第一実験 32.5db

第二実験 15db (一)

差 17.5db

防振ゴムを附加した事により第一スタジオ内のコンバーターによる騒音が17db 減じている。

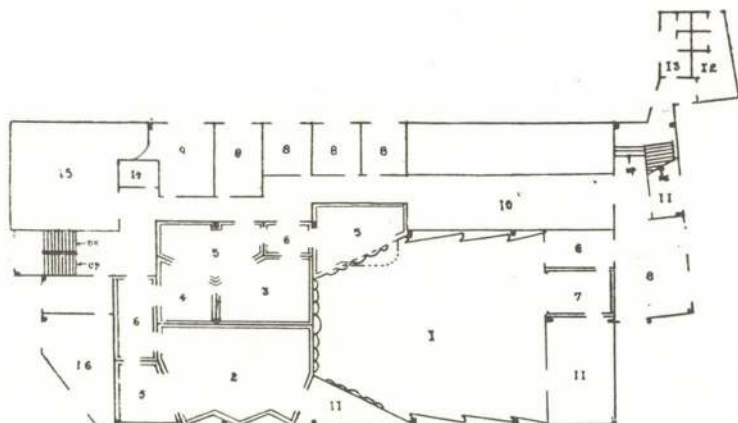
第三実験 第一スタジオ内空中音をオーディオメーター 256 ∞ を用いて平衡法により測定エレベーター上昇下降共に30~35db



第二スタジオ副調整室

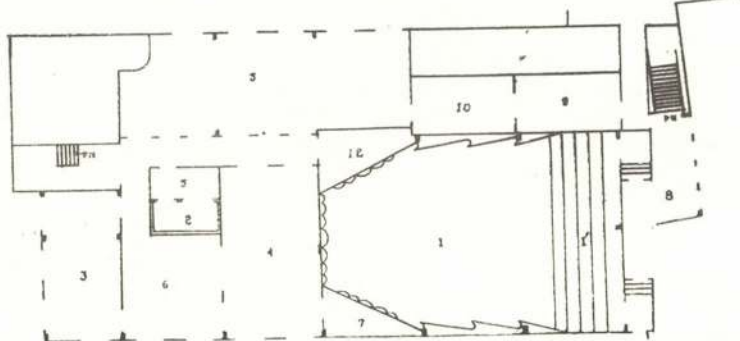
NJBスタジオ1階平面図(阪急ビル西館9階)

- 1 No.1スタジオ 2 No.2スタジオ 3 No.3スタジオ
4 No.4スタジオ 5 副調整室 6 前室 7 アナウンスブース 8 控室 9 レコードファイル 10 エレベーターホール 11 擬音効果室及倉庫 12 男子便所 13 女子便所 14 湯沸室 15 荷物用エレベーター 16 宿直室



NJBスタジオ2階平面図(阪急ビル西館10階)

- 1 No.1スタジオ上部1'観客席 2 No.5スタジオ 3 事務室 4 主調整室 5 副調整室 6 録音室 7 反響室 8 ホール 9 電池室 10 発電機室 11 空気調整及受電室 12 送風機械室



エレベーターの音はコンヴァーターに防振ゴムを附加しただけは取れない、又エレベーターの扉を開いても閉じてエレベーターホールでは5db 違うが第一スタジオ内では変化なくエレベーターの運転音は固体音として伝わって来ている

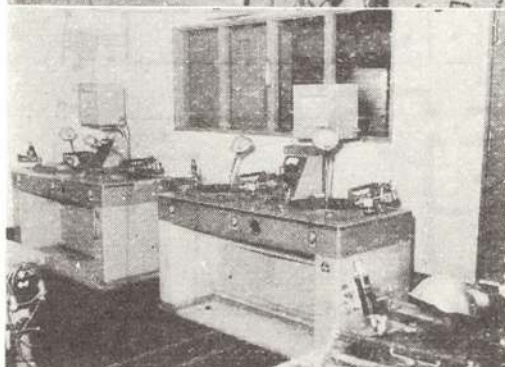
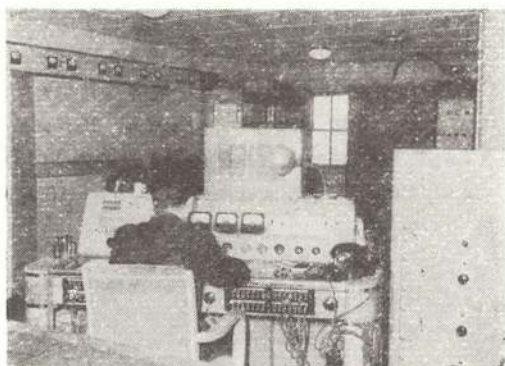
第六回測定 (26.7.26~27)

(第1スタジオに関し)

26.7.26.27の第一スタジオの現状、後部の壁吸音仕上前方ポリシリンダー設置、副調整室を拡張スタジオ内に突出させた、床はバイラー敷

2-A オーディオメーターによる測定

コンヴァーター四台空気洗滌器及び冷房 40db



上より

主調整室

録音室

主調整室標準時計ケース(精工社製)

コンヴァーター一合空気洗滌器 35db

指示騒音計による測定

コンヴァーター 4台 空気清浄器 送風器 冷房 其他全機械運転中 40~45db

第二スタジオ)

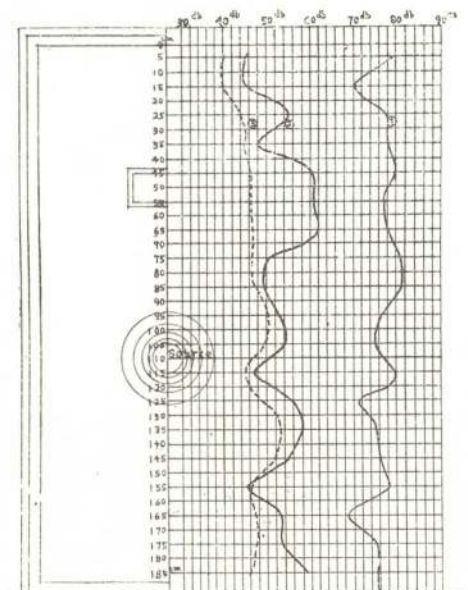
コンバーター四台送風冷房状態で吸込口より4m

スタジオ周囲の騒音源

騒音度

(第五回測定のととき26.5.22)

コンバーター直前	第一実験	80DB	第二実験	82DB
コンバーター室入口	//	67	//	69
電池室中央	//	48	//	46
電機室鉄板上	//	47	//	48.5
エレベーターロビー	//	44	//	46
(第六回測定のととき)				
コンバーター直前		76~78db		
コンバーター室入口		71db		
エレベーターホール		59db		
空気洗滌機直前		78db		
冷房機直前		73db		



Transmission-loss of Sound Proof Door

防音扉遮音度

- ① 音源より 80db1000 ∞ の純音を出し扉を開いたときの各位置の測定値
- ② 改造前に於ける防音扉を閉じ除き③と同条件の測定
- ③ 覗き窓、召し合はせ及び内部改造後同条件のもとに於ける測定値音源は前室側扉前方1.50m高さ1mの位置に置く

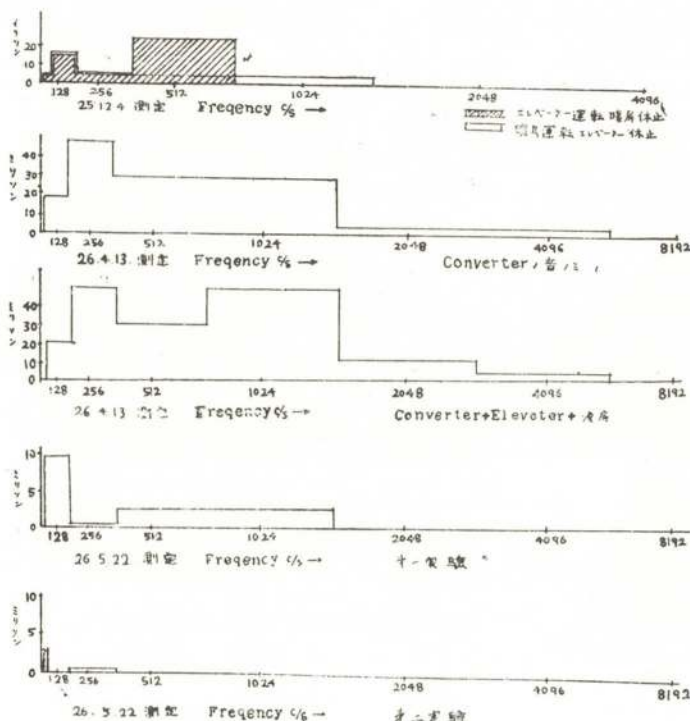


Fig 1 No. 1. Studio 騒音スペクトル

前方に於ける値で30dbである

以上を以つてスタジオの騒音度に関する測定を終つたが、第六回測定に於ては廊下及び各室の騒音度は見学演奏等のため極めて多く、又前室の扉は殆んど開かれていた。その結果第五回測定に比して騒音度は上つてゐる。第一スタジオに於ては百貨店用新設空気清浄器エアーワッシャーが新に最大騒音源として加わりコンバーターの防振ゴムによる効果を消している

今回は空気洗滌器とコンバーターの音を分離して測定出来なかつたが全コンバーターに防振ゴムを多数附加したため第五回測定より予定される騒音度よりは高くなるとしても、若し外部との二重窓を全部閉し、空気清浄器の運転が止まり、各二重の防音扉を閉じ、完全なる放送状態とすれば 30db 程度の騒音度に下げ得ることは確実である尙次に完成された当建築物中にある各種騒音源の大きさを示し、又ぐらふに於て過去に於ける各スタジオの騒音測定結果を示す

残 響 時 間

第一スタジオ

残響時間の予定は1.2~0.9秒であるが使用された材料の吸音係数を低音波部分に於て少く見て計算値としては長い目のものを出した。そして出来上つたものに対する予定として低周波部分に於ては此の70%位の値

となると考えて来た

次に計算値を示す

123∞	256∞	512∞	1024∞
1.9秒	1.4	1.10	0.92
2048∞	4096∞	8192∞	
0.87	0.87	0.87	

そこで吾々は第六回の測定に於て下図に示す如き装置で残響時間を測定した。

此の測定結果は

サイクル	100	200	500	1000	2000
残響時間	1.28	1.2	0.9	0.8	0.6

上記結果は予定されていた残響時間に殆んど一致しているそして此の室に対する残響としてはほぼ最適状態である

第二スタジオ

第二スタジオの残響時間は 500~1000 ∞で0.3~0.5秒が予定されていたがその結果

500	800
0.4秒	0.8秒

であり此れも殆んど一致している

第三以下のスタジオ

此れ等のスタジオはデッドルームに予定されて居り測定結果も0.1秒以下のデットとなつてゐる。

補足資料として特に最適音響性を要求し其の処理の困難な第一スタジオの残響調整の過程及び残響波形につき述べる。

最初の予定残響時間は1~1.2秒であつたが此れは最近の傾向として996立方メートルの容積を持つ此のスタジオには少し長いのである (Fig4に示す最適残響時間と比較)

そこで TAIOR MAKING に於ける第一スタジオの実状については Fig 3 に示す如き仕上にあつて (26年4月1日現在) 残響時間の計算したる結果は Fig4 のグラフの如くであつた。そこで更に床にフェルトを仮敷した結果 (26年4月17日現在) では一般に残響時間は短

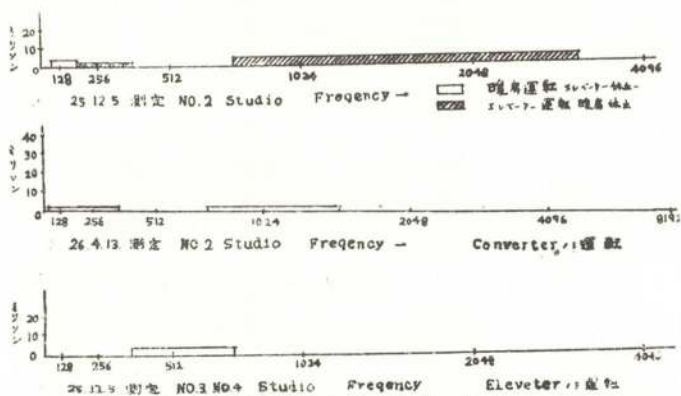
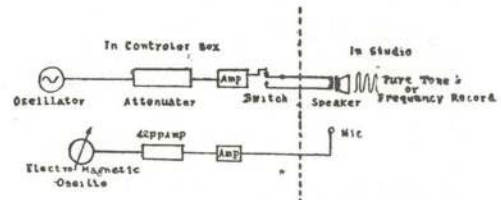


Fig 2 No. 2. No. 3. No. 4. Studio 騒音スペクトル

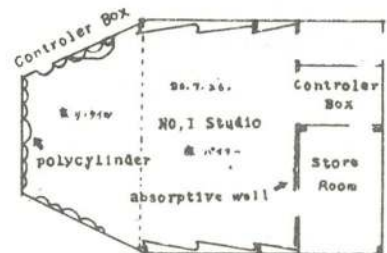
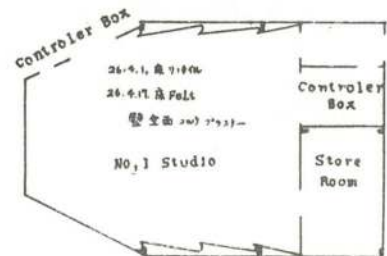
くなつて来たのであるが〔計算値Fig4 点線〕フェルトは高周波領域に於てのみ吸音率高く低周波 200 サイクル以下では残響時間が長く残る結果が現れた。そこでその調整とスタジオ内音響エネルギーの均等分常を考えステイジ背面及び両側にポリシリンダーの設置を考慮した。ポリシリンダーのベニヤ板による機械的共振から来る低周波吸音と高周波の反射、及びポリシリンダーの対向壁面スタジオ後壁にフェルト下敷ベツチン襷貼り仕上による、高周波吸音壁を作り、此の両者の相互作用により、最適残音特性に合致すべく計画した。そこで此の改造予定に対する計算値は Fig 5 となつたのである（これにより低周波部分に於て計算値以上の吸音効果のあることを期待していた）此の改造が実施された後（26年7月26日）測定した結果は Fig 5 の巾広の実線及び点線となり最適特性によく一致したものととなつたのである。

更に残響波形は Fig 6 に示す如き形となり（電磁オシロによる）音響エネルギーの拡散も良好な結果となつたのである。

（註 残響計算は EYRING の理論より竹中工務店設計部に於て作成した実用計算法による。）

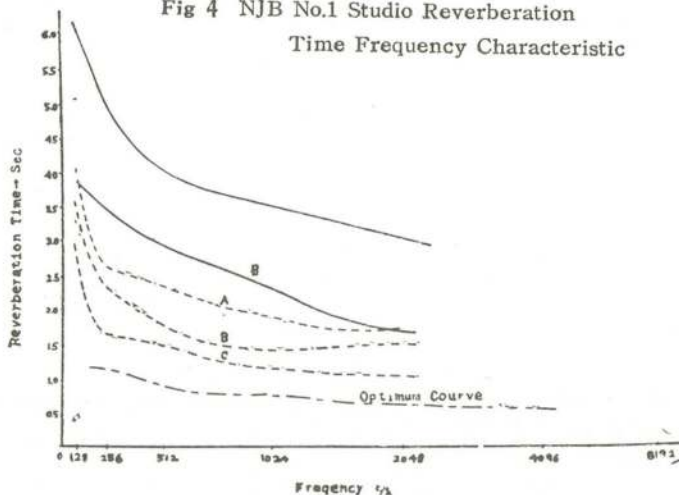


Reverberation Time 測定 System



- 床リノタイル A 聴衆 0
- - - - 床フェルト仮敷 B 聴衆 1/3
- C 聴衆満員

Fig 4 NJB No.1 Studio Reverberation Time Frequency Characteristic



理想的床材料

リノリウム リノタイル



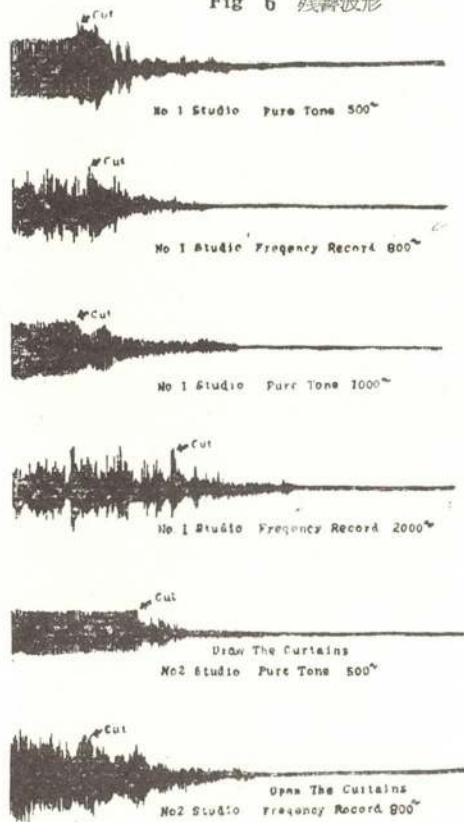
特製リノリウム糊 リノリウム・ワックス

東洋リノリウム株式会社

本社・工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八 電話 伊丹 1・51・69

大阪事務所 大阪市東区瓦町二丁目 三和ビル 電話 北戎 375・376 東京支店 東京都中央区銀座四丁目 三和ビル 電話 京橋 1701・2564

Fig 6 残響波形



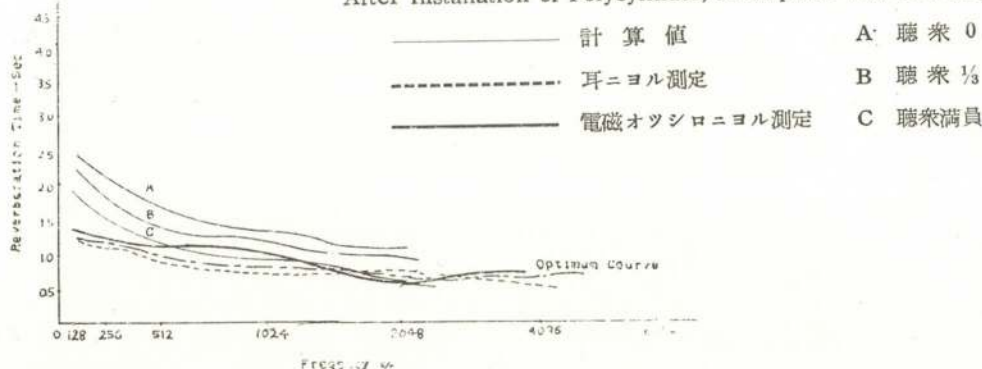
結 語

以上を以て測定に対する報告を終るが各室の音響エネルギーの分布に関しては室形態が最適であり最良の状態にあるといえる。残響特性も各室とも殆んど最適残響時間にある。防音扉に関してはその標準の遮音度を出している

唯騒音に関して当初の予算面より第一スタジオがFloat出来なかつたため一般のラヂオスタジオよりは騒音が数値上高くなっているが、此れとても第一スタジオを使用する種類の放送には善障りなく、特に管絃楽の如き総合的周波数を持つ演奏に対する放送効果は数回の実施を経て、其の各種周波数の楽音の分離状態及単一マイクロフォンへの吸音効果等はその前例を見ない程優秀なものである事を実証するものである。

又第二スタジオ以下各スタジオはFloatされた完全な防音響造であり、その効果は完全なる使用によつて充分発揮されている。以上の諸点より周囲に最大級の騒音源を持ちながら(NJB)新日本放送のスタジオは放送建築としての十分な性能を有していることが結論されるのである。(筆者竹中工務店設計部次長)

Fig 5 NJB No. 1 Studio Reverberation Time Frequency Characteristic
After installation of Polycylinder, Absorptive wall and carpet



東洋の
リノエム

大阪市東区瓦町2丁目(三和ビル6階)

株式会社 東 工 社 北浜② 377.378
東京都中央区銀座東6丁目木挽船ビル 電話銀座(57) 3744

リノタイル
アスタイル・ゴムタイル
其他床材一式施工



二人の徒弟

近代建築発展の一試論

徳田 穎

今年、1952年は近代建築の発展に先駆的役をはたしたバクストン (Joseph Paxton, 1801—1865) 及び、ボガードス (James Bogardus, 1800—1874) 生誕約150年目にあたり、建築史的には真に意義深い年である。ために、この二人の先駆者の徒弟よりはじまり、近代建築の発展に顕著なる足跡をのこした数少ない生涯を偲びつつ、近代建築発展の一面を考察してみよう。もつとも、産業革命を起点とし、それより19世紀末にいたる西洋近代社会にあつては、この徒弟なる語に二通りの解釈がある。即ち、その一はイギリス近代社会にあつての既成教育機関における職業教育機関欠如を充当する職業教育過程としての徒弟——《チューダー朝時代に救済政策として実施された徒弟法が、漸進的に救済という目的をはなれて職業教育過程と変形したものであるが》——と、他の一は、たゞ単に生活の手段として、貧困なるがゆえに人生の初期を徒弟よりはじめるという経済的理由によるものである。したがつて、両者は身分階級をおなじくするものではあるが、その本質は著しく異つている。

バクストン、ボガードスの二人は、くしくも、この両徒弟に該当するものである。

さて、私はヴィクトリア女王 (Queen Victoria, 1837—1901) 時代におけるイギリス近代社会の園芸熱が如何なるものであつたかは詳には知らない。しかし、当時すでに国都ロンドンには園芸協会 (Horticultural Society) の設立をみることでありして、造園熱或は花卉栽培熱はかなりさかんなものであつたろうと思われる。実際、人々は一厘の園芸家になるということが、地位と財産を獲得する手段であるとも考えていた。就中、なんらの財産或は門閥すらもたぬ人々にとっては、社会的にも経済的にも園芸家になるということが慇懃でもあり、また上流社会に接近する恰好の機会でもあつた。

この園芸熱のためか、或は他のなんらかの理由でか、バクストンは幼少期にはほとんど教育らしい教育を身につけることもなく、早くも15才にして園芸師の徒弟として人生の第一歩をふみだしている。園芸にとりなり勾やかな夢と空想、そして彼の誠実と才能とは、バクストンを一介の園芸師にとどめなかつた。とにかくも徒弟年期完了後23才には——《徒弟法によれば男子の徒弟期完了年令は24才までと規定されているのであるが》——当時、著名な愛園家デボンシャー公爵の園芸師と立身し、さらに2年後には、その園芸頭となり週給18シリングを得る

ようになった。デボンシャー公爵家での仕事は花卉栽培と、鉄とガラスでもつての温室の建築であつた。かくして、1838年に蘭栽培のため300フートにもおよぶ大温室の建築に着手し、1840年には完成せしめている。これは当時イギリス最大の温室であるといつても過言ではなかつた。さらに園芸頭という地位のため、経済的にも時間的にも余裕をもちえたためであろうか、バクストンの貴族的趣味と学者的教養はより顕著となり、園芸界の指導者として人々の尊敬をうけるにいたつた。

珍花を広範囲に求めるべく、公爵とともに海外に旅行しまた園芸雑誌 (The Magazine of Horticulture) の主幹として縦横に活躍したのもこの頃であつた。温室の建築或は園芸雑誌上に度々発表した温室の設計案はバクストンの実際の経験を豊富にした。このような人爲と経験は、よく水晶宮という近代建築発展史上における劃期的な建築物完成の基調となりえたのである。バクストンは産業革命に端を発する近代文明の英雄達、即ち発明家でも天才的技術家でもなかつた。たゞ、ひたすら浪漫的な夢と、経験をもととして、自己の情熱を現実追求してやまなかつたロマンチストではあつた。だが、あえて私は水晶宮の建築をなしとげしめた、バクストンの情熱の底に秘められたものをさぐつてみよう。さて、政府より水晶宮建築の依頼を受けたのは、博覧会開催に先立つ1850年のことである。丁度その頃バクストンはそれまでイギリスでは栽培不可能と思われていた熱帯産の大鬼蓮 (Victoria Regia) の温室栽培に成功した。その大輪の美しい見事な花はバクストンを歓喜の絶頂においたのである。名声と地位と財産は、さらにもまして高まるにいたり、水晶宮建築の構想はこのような環境のさなかにあつて、この大鬼蓮の花から思いついたとのことである。当時の人々は太陽に光り輝く鉄とガラスのこの建築物を水晶宮 (Crystal Palace) とは名附けたものゝ、バクストン自身はむしろ水蓮宮 (Water-lily Palace) と呼びたかつたであろう。水晶宮の当時の建築家達、否、広く社会全般にあたえた影響は軽視しえぬものがある。水晶宮は温室ではない。それは鉄とガラスの広大な殿堂であつた。過去の華麗な芸術的建築にのみ追憶と憧憬をよせ啓蒙的な新時代の新しい建築に露ほどの同情すらあたえなかつた人々も、水晶宮には驚嘆の眼でもつて惜気もなく讃美の声をそいいでいる。

建築主材としての鉄が建築美にとつて、どれほどの価

値があるかと、建築美における鉄の存在を無価値視したラスキン (John Ruskin, 1819—1900) の言葉は水晶宮には妥当でない。

かくしてバクストンは園芸家としてよりは、むしろ建築家として有名となつた。フランスに渡り、二三の貴族の求めに応じて城館を建築したのもそのためであつたろう。これらの建築物の詳細を知るよしもないが、しかし我々はバクストンの人為と水晶宮を通じて、イギリスの否ヨーロッパ的な近代建築発展の一面をうかがひうるであらう。即ち、バクストンの芸術にみられる浪漫性と現実性の不思議な複合性、そこに近代建築の浪漫主義より折衷主義へ移行せんとする、漸進的ではあるが必然的な発展の方向をうかがひうる。水晶宮こそは、よくその近代建築の発展に先駆的役割をはたしたものであることはこゝにあきらかである。やがてバクストンは、はなやかな、また充実した生活の後に、如何にもイギリス人らしく余生を1865年シデンハムの地で永遠の眠りにつくまで地方選出の議員として平穩に送っている。ヴィクトリア女王は報いるにサー (Sir) の称号をあたえ、あつく遇するにいたつた。さて、ひるがえつて次いでボガードスの生涯をながめつゝ、近代建築発展の他の一面を考察してみよう。1853年といえば、アメリカ全土を流血と混乱におとし入れた南北戦争 (Civil War, 1861—1865) にさきだつこと約10年であり、アメリカ北東部諸州にはようやくアメリカ的な文化がその花を開こうとしていた時代であつた。そのさきがけとしてニューヨークに大博覧会が開催されたのである。ボガードスはいちはやく水晶宮の奥物大の模型を完成し、文化的にはまだ後進的なアメリカの人々に新しい建築の方向をこの博覧会で展示した。しかし、これはあくまでもヨーロッパの先進国イギリスの新しい建築物の紹介にとどまり、ボガードスの個性を表現したものではなかつた。それはボガードスの性格とは全く異つたものであつた。

即ち、幼少時代はバクストンと類似の道を歩んだのであるが、長ずるにおよんで、著しく異つた方向をとっている。1800年、ニューヨーク州の一寒村キヤツキルの貧家に生誕したボガードスは、生家の貧困のゆえ、断片的にのみ初等教育をみにつけ、やはり早くもバクストンと同じく15才にして時計師の徒弟として人生の第一歩をあゆみだしている。断片的とはいえ、小学校において数学と物化学に特異な才能を示した貧家の子弟の常として、それは当然歩むべき方向であつたろうが、徒弟時代のボガードスは苦悩と不満で終始した。

そこにはバクストンの少年時代をいろうつた浪漫性は少しもみられないのである。一介の時計師になるということは、ボガードスの野心の対象としてはあまりにも小さいものであつた。徒弟年期終了後、当時繁栄途上にあつたニューヨークに來住したのもそのためである。だが

大都会はボガードスを遇するには、あまりにも無情であつた。加うるに天才的才能のゆえ、社会に融合するをえず、苦難にみちた孤独な放浪生活がこゝではじまつた。しかし人間社会の嚴肅さをあちわいつゝも、ボガードスの才能は萎縮することなく、苦難のうちに増々伸長し、遂に1823年にいたつて新型の精密時計を考案し、当時科学者として最高の名誉であるニューヨークのアメリカ学会 (American Institute of New York) の金メダルを獲得するにいたつた。さらに2年後には新型時計と新型の綿糸紡績機を考案し、次いで翌年、製糖機、新型印刷機と相次いで特許を獲得し、多方面な天才的発明家として有名人となりつゝあつた。

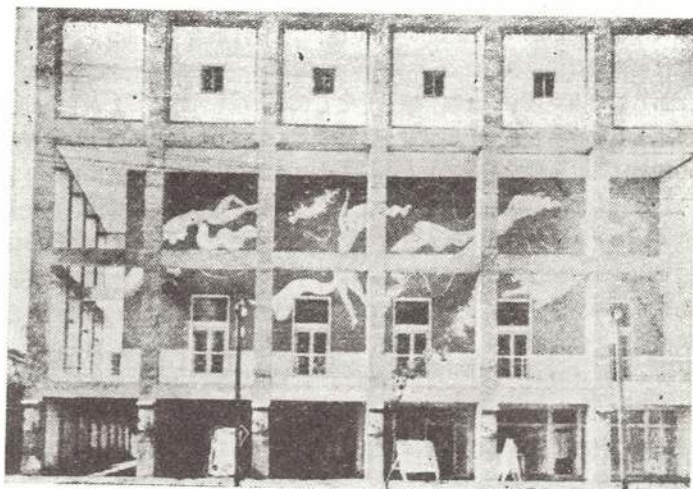
1835年にはドライ・ガス計器に関する或る種の発明を完成し、再度ニューヨークのアメリカ学会より金メダルを受賞した。またイギリスに渡り、郵便物に使用する特殊な印刷機を完成し、イギリス政府の提供した多額な懸賞金を獲得したのは1839年のことであつた。加うるにアメリカへ帰国後、十指に余る各種の発明をなしとげ、天才的な発明家、科学者として近代文明に裨益するところが頗る大であつた。このボガードスの生涯は、なんの躊躇することもなく現実的、実用的なる事物を求めて近代文明の潮流に発明家として情熱を投入した不屈な、また剛毅な人間を示すものであり、そこに我々は西洋的とはいへ、いかにもアメリカ的な近代文明の発展の姿をうかがひうることも思ふのである。対象が機械であれ、或は器具であれ、便利なもの、役に立つものと、ひたむきに際限もなくそゝいだバクストンの才能が建築へと向つたのは、いつの頃からであつたろうか。1850年、床及び壁体の支えとして建築主材に鉄鉄を使用し、ニューヨークの郊外に五階建工場を建築したのが最初であらう。

工場の作業機器類の装備のため、さらに加うるに作業床面積の広大等のため、石、木材を主材としては大工場建築は不可能であつた。それには鉄材の使用のみが可能であり、それをなんのためらうこともなく実際に適用したボガードスは、新しい建築分野での、やはり勝利者でもあつた。この建築物は鋳鉄でもつてせる世界最初のものであるとはされ、近代建築発展史上における劃期的な建築物であるが、その詳細は不明である。おなじくボガードスの建築にして、幸にもその詳細を認知しうるものとしては、1873年ボルチモアに完成をみた太陽製鉄ビル (Sun Iron Building, 筆者訳) 五階建がある。この建築物は外表面に鋳鉄柱を露出せしめた典型的な鋳鉄製ビルであり、その意味においては、やはり世界最初の鋳鉄製ビルであつた。さらに相次いで、ワシントンにはアダムス運送ビル (Adams Express Building, 筆者訳) シカゴにはバース・ビル (Birch Building) をおなじ工法で完成し、近代建築の発展に貢献するところが頗る大であ

(29頁へ続く)

ハガキ回答

最近竣工の建築を批評する



アポロ座

建築批評の必要性はかねてより各方面から唱道されている。然し専門家としての建築批評家が生まれるには、それだけの社会的な基盤ができなければならない。編集委員会は先ず地均らし工作の為に、とにかく一言づつでもできるだけ多くの方から批評的御意見を承り度く、右記の様なハガキを出して御回答を御願ひした。ハガキ発送数 100枚御回答は15通で今迄のアンケートよりも御回答率は悪かつた。それと共に御回答の内容に於ても建築批評の社会性がまだ確立されてないことを示した。

拝啓益御清祥の段慶賀に存じますさて御多忙中恐縮乍ら会誌「建築と社会」に建築批評を御願ひ致し度く下記の建物の内何れかについてなるべく具体的に一般的傾向でなく建物名を挙げて御意見御批評を返信用ハガキに御記入の上来る二月二十五日迄に編集部宛に御送下されば幸甚に存じます。

- | | |
|--------|-----------|
| 1 航空ビル | 2 国際見本市会館 |
| 3 不二屋 | 4 日本経済新聞社 |
| 5 アポロ座 | 6 高島屋新館 |

村 野 藤 吾

航空ビル

窓が非常に美しいと思います。丸い角がもつと鋭角につき出て居れば更らに印象的だと思います。

国際見本市会館

非常に清潔な感じがします。がもう少し華やかな感じを与へてもよいのではないでせうか。内部は申分ない出来ばえと思います。

高島屋新館

既設の構造を利用したものとして又、意匠の近代的な点に於て誠に相応しい出来ばえと思います。床の色が明るいものになればもつと引き立つと思います。建築物の手入れが充分でない為めと思います。

(筆者村野、森建築事務所長)

山 根 正 次 郎

「建築」とは他の純粋芸術の如く建築家のみの自由な創造物ではなくて、起画から竣工に到る迄その建物に直接又は間接関連を持つ個別的社会的要望制約、条件、が秩序と規準とを以てギリギリ迄追求され集積され、それらが建築家のもつ技術と判断力と美意識と人格と云つた整

流器を通過して具象化された社会的生産物であるべきが故に、それが「如何にして作られたか」が問題であり建築批評の核心となるべきであつて、その形態の皮相的観察による「もてはやし」「こきおろし」は建築創造過程に於る人と人との真剣な触れ合ひを冒瀆するものと云へる。従つて出来上つた作品を一瞥したのみでの許され得る批評の範囲は「たかの知れた」ものであり、その建築の持つ本質には何ら触れ得ないであらう。以上をもつて批評の言葉に代へる。

高島屋新館

光 安 義 光

改装であるが、此作品に接した時久し振りに坂倉準三の持味にふれたと思つた。

蛍光灯と白いプラスター壁、天井、テラゾーの市松床、群青色のガラス(アクリライト)スクリーン、ガラスブロック、此等の材料により構成された空間は私は始めて味つた。此作品が商店に与へた影響は余りにも大きかつたと考へている。

(アクリライトの施工はもつと考へるべきである)

(筆者兵庫県営繕課)

国際見本市会館

相 沢 喜 久 太 郎

本建物は周囲の環境が良くないので、折角の高層ビルでありながら、何だか落付きがなく、引き立たないのが第一印象として残念である、附近一体が早く美化されることを祈つて止まない。

先づ外観としては何の飾りけも持たない、直線と直線の交錯しているだけの、実にスツキリとした白壁の七階で、澄みきつた青空に屹立している姿は、清楚そのものといつてよい。

一階のサロンは西と南に天井まで筒抜けの、全体が硝子張りとなつていて、その室内の明るいことと、天気の良い日などは太陽の光線が一杯に射し込んで暖房もいらぬ位で大変に感じがよい。

全体として室内のどこをみても、色彩が非常に優れていて、誰れの眼にも気持よく受取れることであつた、概括していえば、設計も施工も最近大阪に於ける、秀逸のものであるということが断言できる。

国際見本市会館

松 本 儀 八

大阪方面で最近竣工した建物の中其容量に於ても其實に於ても能くまとまつた然かも明るい感じのする出来栄への建物の一つであると思ふ。

室内を見て廻つて教へられた点多かつたが、第一に気付いた事は竣工後時間的に未だ幾何も経たないのにフローリングブロックの甚だしいアバレ（シリンケージ）である。恐らく施工当時にはまともなものであつたに相違ないがブロック用材（ストリップ）のシーズニングの不十分から生じた現象であつて何としても惜しい事である。

在来フローリングとかブロックなど業界ではやゝもすれば等閑に付せられる傾向もあるがさて竣工後其及ぼす影響が誠に大きい、誠に心すべき事だと痛感した此建物の床の如きも正に玉に傷の観。

（筆者大阪府家具商工業協同組合理事長）

航空ビル

中 野 順 次 郎

外壁タイルの色が不統一である気がつくが、かつて絵画にあつた点描画の手法と思ひ合せて色彩効果は豊かになり結果からみてよかつた。多量のタイルを苦心して同色に焼き上げる無理なことを考へず、むしろ破たんのない僅かの色ちがい、或は濃淡のある製品を有効に使用して、しかも広い面積の壁をこの建物の如く豊かに、やわらかく、仕上ることを肯定したいものである。材料の製造経路施工への関聯が無理でなく自然であることは経済的に妥当な方法であり、同時に意匠的にも認めなければならないことである。

但し強さ、耐水、耐火等の如き材料そのものの、構造的価値が異なることは認め難く、これは材料への根本的必要条件である。

（筆者都島高工教頭）

堀 口 甚 吉

私は毎日、朝と夕方と航空ビルの傍を通る。航空ビルは敷地の関係上これと同じような敷地に建てられた他の建物と同じような感じを人に与へる可能性がある。チリ一館といつたが外国の写真でみた建物の感じが、航空ビルを見るごとに思い出されるのは、この敷地による制約からくるのである。

航空ビルの阪急側の手法は大変いいと思います。阪急東口電停側はチョット手をぬいた感じです。

とにかく、建築家をして道を歩いていて時、オヤと上を仰ぎみて建物の全貌をみようと思はせる建物は外観上すぐれたものでありましよう。

大阪駅前から、電車にのり、阪急東口へ廻るときに窓からみられる航空ビルは素敵です、夜みてもきれいですね。

あれに量（マス）の偉大さがあれば申分ありませんが、高さの制限敷地等の関係上これは望んでも得られませんが、

（筆者府立淀川工高教諭）

建築批評について

小 田 島 兵 吉

小生未熟にて諸家の作品の批評など思いもよらず、たゞ単に好き嫌いだけを申したく存じます。

好き……………なし

嫌い……………不二屋、高島屋新館

好きでも嫌いでもなし……………国際見本市会館、

アポロ座 日本経済新聞社、航空ビル。

（筆者大林組設計部長）



航空ビル

〔流行はデパートより〕と衣料、雑貨等の宣伝に良く用ひられた言葉であるが建築にも該当するものではないか？あらゆる階級が容易に出入出来る処として、今日では「デパート」程の場所は他にない、それだけに壁仕上一つにも気を配らねばなるまい。

高島屋が大眾に「デビュー」して一年、現在の処「ナンバー 1」だとの世評は何にあるか？第一に新興材料を巧みに使ひこなせたことであろう、この工事の利点は外観の費用を要せず、それだけ内装に「プチ込めた」ことである。天井構成、床装備、壁仕上、其他造作附帯施設に新材料を用いて戦後の建築界に一異彩を放ち、或意味では建築界への啓蒙的だと言へる面がある。「外国雑誌」の「コッピイ」或は「イミテーション」「マンネリズム」だと言はれる方面への確かに鉄鎚である。

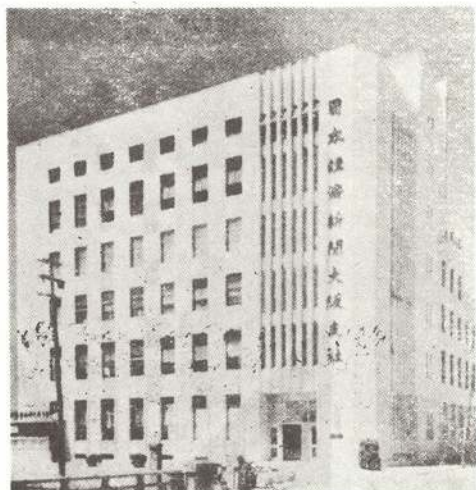
「アプレゲール」の良く廻上にあるとき、「アバンゲール」よりの建築家ではなくてはこなせない苦心の跡がまざまざと拝見出来る、各部に就いての感想はとても拝受の「ハガキ面」では記せない。

流行は「デパート」よりいやいや建築の新意匠も「デパート」よりか？

奥 戸 大 藏

人間に完全なる人はない、夫々長所もあり短所もあるので面白い。建築もそうだ完全なるものはまづ見当らない。夫々一長一短であり又人の好みの差異によつてよいとも悪いとも云ひ得る、暇がないので夫々建物を見てまわれないので今回の批評は一応お断りしたいと思ひます。皆様がよい建築を作ろうと努力精進して居られることに敬意を表します。

(筆者日本ブロック建設神戸出張所)



日本経済新聞

久し振りに心齋橋に出てその一角に忽然として出現した、不二屋の構成に快哉をさげんだ、軒並のねちこいファサード建築の中に超然とストリップの素材美を誇っている但し、そのはだは少々荒れていて手入が足らぬ様に思はれた。

(筆者野村建設工業)

アポロ座への疑問

上 林 博 雄

此の建物が出来上つた当座、偶然私と学校を出たばかりの若いデザイナーがその前を通つた。彼は村野先生の方のデザインだと云ひ私は違ふと主張した。其処で内部も見せてもらつて確かめることとした。内部でデテイルを見て私は直ぐシャツポを脱いだ。その不名誉(?)を補うために二三言云はせてほしい。

此の建物の企画から完成までに何か大きい障害が出来たのではなからうか、例へば予算が急に削られたと云う様な、さうでないとしたら平面の取扱ひや材料の取扱ひからあのやうなチグハグの感じを受けないだらう。

仮設構造と称するフォサイドの鉄骨の柱梁は何を意図しているか。意匠上とすれば如何なる美学もそれを説明出来ないだらうし、構造上とすれば常識が成り立たない。収容人員と坪数の比の上から不経済な計画だと思ふが、例へばプロメネードに楽しさがなく機能的でないのは中途から施主側の平面変更があつたのであらうか。

完成に至るまで事務所は設計管理が出来なかつたのであらうか。外観の色彩計画は粗雑であり、青兎の壁画はグロとセンチを強調し、ネオンの広告塔に至つては飛田にふさはしいものとなつている。

以上私は自問する、そしてこのケースは事務所が外的悪条件に予備なくされて出来たのだと自答し度いのである。

(筆者大阪市大)

大家の設計に対して私如きが批評がましい事を述べるのは甚だ潜越ではあるが、二三思いついたまゝを記させて頂く。

1. 外部コンクリート打放し壁は特異な行き方であるが、関西人の好みから見て、又あの場所で、レストラン用としての建物に、設計者の意図された効果があがつているかどうかと思ふ。
2. 屋内南側壁面六角形色モザイクの曲線模様は三階ぶつ通した意味が現れて居らず、又タイルの色が冴えず家具等の色合とも調和しない、材料選択に今一層の考慮が払はれたらばと思う。
3. 食堂と厨房の境にスクリーンを設けないのは新しい

様式であるが、あまり美しくもない厨房天蓋や使用人の動きまはつている姿がまる見えで、食堂の雰囲気と不調和な気がする。

4. 二、三階白色吸音テツクスに蛍光灯ルーバーをはめこんだ軽快な明るい天井は床の淡緑色ゴムタイルと相対つて新鮮な感じを与へる。
5. 前記ゴムタイルの目地割を窓方立及柱心と合す為に三四列ゴムタイルの巾を縮めてあるが、あの模様としてはそれ程苦心して窓、柱心等と合さなくてもよかつた様に思はれる。(筆者大林組設計部)

三 田 一 男

まあづー。日本建築協会が「建築批評」を育てやうとの意図の如何は別として、取りあげられたと云ふことに満腔の敬意を表したい。処でその演出とビツクアツプされた建物群の名を見ると関西一と、大阪と一云ふ奥いがブーンと来る。妄言多謝。一試す評一航空ビル鋭角な出隅の丸い面！思案の果てはねー。国際見本市会館物は何であろうと兎角背広スタイルにしておけば婚礼にも葬式にでも一。ビルスタイルと云ふものは写真を見ただけでは方角がわからないのが本場のスタイルらしい。不二屋今からでも桂離宮を建てたいと思はれるのでせうね。日本経済新聞社日本の経済は戦前の資本主義を再復習しているんだと云いたいのでせう。アプレゲールの実業人が金が出来てアベンゲールの趣味を真似たくなつたとすれば？アポロ座デザインとは数の問題でなく質の問題であると云ふ明らかなことの立証！コンマーシャリズムに対する深い理解、歌麿が枕絵を書く時の深底の心境はどうだつたろうと思ふ。高島屋新館コルビュジェにならいましたと云ふことを公評したのでせうね。

如何なる脚色をされるが多少不明にて「どれかの建物をとりあげる」と云ふこと自身が既に批評の始まりとなり思案投首、絶評を試みました、編輯部各位の御努力を多と致します。敬白 (筆者三田建築事務所々長)

小 林 清

建築の批評と云うものは、一寸外観をみただけでは、出来るものではありません、勿論内部や、設備を充分見た上、建築主の意見や、設計者の意図をきいたり、あるいは建築工費のことを充分に知る必要があり、うわ面だけ見て、とやかく云うことは、いとも美しきコーヒ茶わんに容れられたコーヒを眺めてその味わいを論ぜよと云うに等しく、不可能とも云うべきことです。お断りまで (筆者新住宅社々長)



高島屋新館

(ハガキ回答終り)

(25頁より続く)

つた。このように不断に休むことなく死の直前まで、現実生き、未来を夢みつつ活躍し、苦悩と不満でもって生活をはじめたニューヨークで1874年その多彩な栄光にみちた生涯の幕をとちている。

未来とは創造すべきものであり、現在とは創造と建設を促すべきものであつた、ボガードスのこの生涯を通じて、我々は近代建築発展におけるアメリカ的な方向を知るのである。即ち、それは過去の伝統に制約されることなく、ただ実用的な方向へ、機能的な方向へと、なんのためらうこともなく進んだ姿であり、そこには、かのヨーロッパ的な過去への愛着は、少しも存在しない。西洋近代建築発展過程において、ヨーロッパ的なもの、そしてアメリカ的なものとの二主流を強調するゆえんはこのためであり、更には、建築なるものは、すべて人間の創造によるものであり、建築物は建築家の個性の表現にはかならないがため、徒弟よりはじまるバクストン、ボガードスの生涯を考察し、それと関連して近代建築の発展を考察したのである。しかしこの小論文はあくまでも近代建築発展の一面を考察したものであり、決定的なものではない。ましてこの叙述は史的方法論にもとづいてなしたものでない。単に一試論として執筆したものであり、学問的という意味においては、その完結を今後に期する次第である。(筆者 阪大文学部大学院研究室)

合 社 資 大 阪 市 北 区 木 幡 町 三 一 番 地 電 話 堀 川 四 一 六 四 番	合 資 公 司 奥 村 重 兵 衛 商 店	合 理 的 工 法 ・ 責 任 施 工	防 錆 完 全 ・ 中 空 防 音	耐 震 ・ 耐 火 ・ 軽 量 ・ 堅 牢	採 用 下 さ い ・	は 日 進 式 を 御	を ・ 軽 量 鉄 骨	に は 軽 量 鉄 骨	間 仕 切 ・ 天 井
--	---	--	---	---	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

(昭和二十六年度)

30

同 渡 辺 誠 巳
災害調査委員会
委員長 池 田 宮 彦
幹 事 津 村 重 一
委 員 五 百 蔵 芳 明
同 池 田 達 雄
同 岩 津 潤
同 大 下 順 三 郎
同 小 泉 昇
同 小 西 岬

同 伴 深
同 益 尾 辰 雄
建材審査委員会
委員長 置 塩 章
副委員長 岡 田 孝 男
幹 事 竹 内 成 夫
同 西 村 勝
委 員 井 手 正 雄
同 奥 島 正 一
同 加 藤 宣 彦

同 桐 本 楠 雅
同 栗 本 栄 一
同 神 田 省 三
同 島 村 佐 次 郎
同 菅 田 豊 重
同 竹 内 孝
同 竹 腰 健 造
同 中 野 順 次 郎
同 称 屋 毅 一
同 野 田 清 三

同 日 野 勝 好
同 布 施 忠 司
同 古 塚 正 治
同 布 袋 真 平
同 真 口 恒 夫
同 増 井 敏 克
同 水 野 喜 一 郎
同 村 野 藤 吾
同 元 吉 勇 太 郎
以 上

会 務 (2月分)

和歌山支部

2日10時より同事務所にて島村、栗林、副支部長藪本幹事等と本部大和常務理事列席支部発展策、集金方法、経費問題等協議

建築法規委員会

建築基準法に関し検討するため本委員会を設置する事となり第一回を6日2時於朝日開催中沢誠一郎、中西六郎、中野順次郎、稗田治、吉田安三郎、鷺尾健三、各員出席中沢氏を委員長に互選、後建築基準法に関し検討したが引き続き回を重ねる事とした

25日2時より於朝日第2回会合、中沢委員長外伊東五郎、中西、稗田委員等出席、大阪府に於ける改正条文原案につき検討した

定例午餐会

7日正午ニューオーサカで別項の通り開催

災害委員会

5日2時於朝日池田宮彦委員長外4名出席今年舉行される予定の国会記念事業企画の中に本会多年調査した地質表出版を提案する事を協議し其の資料の整備方法につき検討した

創立三十五年記念事業委員会

予而委嘱した上記委員会第1回を9日正午市内見本市会館にて開催竹腰会長外各役員東畑記念事業委員長外委員各位等計53名出席、池田主記理事司会の下に竹腰会長より開会挨拶後、本事業遂行についての協力方を懇望され、中野副委員長より舉行に至る経過報告と準備委員会にての草案内容を説明、後進行上の便を計るため各部を設け部長並に部委員に各位をお願し至急各部の活動方を依頼した

池田宮彦氏は災害委員長として地質調査表の出版を懇望、吉田安三郎氏住宅展開催に協力方の意見があつた、東畑氏委員長としての挨拶と資金部長として各位に援助方を懇請、大林副委員長出来る限り各位と共に協力し事業遂行を期したい旨を述べ併せて閉会挨拶後2時解散

建材審査委員会

8日2時半分室、置塩委員長、竹内孝、日野、真口、

栗本、称屋、中野委員集合、朝日石綿特製スレートにつき最後の審査をなすため中河内郡加美村同社大阪工場に赴き原料、製造行程、視察、各種試験実況を検分後同事務所で審査会開催最後決定し、別項の如く証明を発する事にした。尙同月18日3時於朝日開催置塩委員長外7名出席、磐城コンクリート製品スレート、関西ペイント製品防火塗料、ヤハズラス社製品のラス新規申出品につき三社技術者の説明を聞き質問後イワキスレート並ラスは夫々適宜工場検分後更に協議、防火塗料は布施委員に他品共比較試験を行つた結果により再検討する事とした。尙懸案中の田島アスタイルについては竹内分科主査より調査研究の結果報告あり別項の通り証明発行に決定した

定例理事会

13日2時より於朝日中野主記代表外9名出席、関西ペイント共催防火塗料講演会開催。防火建築に関する助成法案学会外共同建議の件、同会連合請負約款今後分布方、工業高等学校優秀卒業生に対し本会より表彰する件、入退会々員詮衡別表通、退会申出者に関する扱の件研究する事など協議した後1月分収支会計報告。各会の経過報告した。尙20日午後於朝日臨時理事会開催役員の重任に関し懇談した

会勢委員会

2月14日5時潜函工法映写会約107名

16日3時菊正宗醸造場約30名別項の通り見学した

記念事業委員会

2月14日2時より於朝日総務部会開催

趣意書、各部分担事項予算等協議

20日各部長会開催、趣意書、予算検討

祝賀会方針、報告会最後開催、住宅凶案懸賞募集、資金募集方針、臨時雇採用方針等協議

26日於朝日出版部会27日於朝日慰霊部会、住宅展部会開催夫々大項方針を協議した

編集委員会

28日3時於朝日白石委員長外出席四五月企画協議四月以降新役員担当なるも発行支障を生ずる故便宜企画を進める事とした

建材部会

5日午後2時並8日正午於朝日青木理事外出席協会27年度理事推薦の件、協会未入会者勧誘の件、カタログ発行協会と協力の件等協議した

定例午餐会

2月定例は7日リュウオーサカで開催前夜来近年稀な雪積で当日の集合が気遣はれたが吹雪紛々の中を厭いなく会する者47名午餐を共にしデザートに入り竹腰会長挨拶後下記源氏のテーブルスピーチがあつた。小川正君父子同じ職業で先輩各位と斯様な席で会する事の悦びと近く渡米の事など。今林彦太郎君若い方々と会し又故人を追想し感慨深いものがある。青木友一君此の会が廻り持ちで世話し会場も移動してはとの意見あり早速竹腰会長より言い出しに次回青木氏に一切の世話を依頼され同君建材部で引受ける事を承諾されるなど談笑。東陶青木真一君南方視察の結果建材進出の痛感、中西六助君技術陣南方進出要望、など賑かであつた、やがて当日余興として(東洋々瓦株式会社寄贈)漫談家花月亭九里丸丈到着約30分間同氏の話を傾けた、2時近く大和理事閉会の挨拶後新入会者日本油脂会社よりの寄贈品を手解散した。

(毎月の本午餐会には各部門より多数御参加あらん事をお願いいたします)

防火塗料講演会の経過

予而計画中の関西ペイント株式会社と共催上記講演会は予告の通り2月22日1時集合今橋クラブ大ホールで開催本会並関西ペイントより発せられた案内により凡200名来聴者あり受付で同社製品のカatalog見本等配付、会場一隅展示の防火塗料外製品を各自観覧、1時30分本会理事滝沢真弓氏司会の下に開始東畑副会長開会挨拶

市大教授中沢博士、小島地建営繕部長等所感関西ペイント菅原常務挨拶ありたる後JISJK5661と国産防火塗料につき建設省研究所第二部長斎藤氏発泡性耐燃につき東大総合試験所桜井高景氏防塗と発泡原理につき同所泉宮雄氏防火建築規準法と防火雨戸につき東大浜田稔氏夫々熱演、最後関西ペイント防火塗料耐燃の防火実験を20分余行い、質問等あり、滝沢真弓氏閉会の言葉を述べ5時閉会した。



正会員 松久保敬三君逝去

本会正会員評議員前監事松久保敬三君昭和27年3月30日突如胃潰瘍のため急逝すられ寔に痛惜の極みであります。

君は大正13年2月20日本会に入会以来屢々役員委員に就任現に評議員として本会今日の隆盛に寄与せられし功績は實に大なるものあり尙今後君に倣ふもの多くありますとき俄かに永別の悲みに遭うことは誠に惜みても余りあることであります。

茲に照肖と略歴を掲げて哀悼の誠を捧げ遙かに御冥福をお祈りいたします。

1. 君は明治29年3月30日兵庫県三原郡志知村に生る

1. 明治45年3月 関西商工学校土木科卒業

1. 大正3年3月 同校建築科卒業

1. 同 年9月 辰野片岡建築事務所入所

1. 同 13年9月 同所退職

1. 同 年同月 株式会社大林組入社

1. 昭和8年4月 同社退職

1. 同 年同月 合名会社尾形工務所無限責任社員として入社

1. 同 14年 退社

1. 同 年 株式会社庚辰組を創立し代表取締役役に就任

1. 同 21年 株式会社住吉組と社名変更代表取締役を重任現在に至る。

因に3月31日自宅に於て告別式挙行大和常務理事並に戸川書記弔問した。

編集後記

予告の通り本月号は民間放送建築の特集とした。放送の内容そのものが各局殆ど似た様なものであるとの批評もあるが、それでも各々特徴のある様に、その建築も似て居る様で且つ夫々に特色をもっている。しかも本号に御執筆下さった諸氏は夫々異つた観点から原稿を御書き下さったので、夫々に興味深い。御執筆の

諸氏には御多忙中を非常に御急がせして、しかもこの特集が遅れるなど御迷惑を御かけした事を御詫びする。

先般材料と設備関係の方々の座談会と設計関係者の座談会を夫々開催した。何れも来月号の誌上に掲載する為である。活潑な議論が交換されたが、何れ来月誌上で御覧を願う筈である。(白石)



ローラー入
調節自在

印 J.O.J. ドアーハンガー

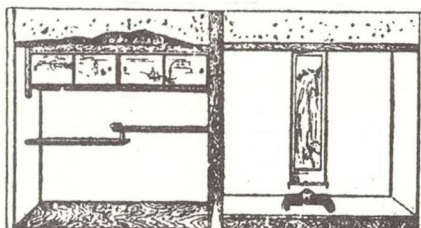
工場・倉庫・ガレージ等には最非 J.O.J. 印のハンガーを
吊り下げ重量 1号 60 Kg. 2号 100 Kg. 製造元・大阪 大同鑄造株式会社

足場丸太も新設

致しました
是非御用命を
御待ち致して居ります

大阪市東区横堀六丁目二七番地
電話 船場 ⑤二四二五番

敷材板ま院栗椽
廻井ん
座床天ら書名竹



有限 古石床材店
会社

陶管・ベンチレータ マンホール・フューム管

各種製造販売

株式会社 三幸商會

大阪市北区曾根崎上一ノ四一
梅田新道(宇治電ビル前)
電話 堀川 ⑤3145番

あらゆる建具 (乾燥材手持豊富)
御簾ふすま
専門製作

山崎建具木工所

大阪市東住吉区湯里町508
電話 東住吉(79) 1283番

日本サッシュ

株式會社

大阪市東区高麗橋二ノ九(野村ビル)

電話 土佐堀 (44) 2995
3979

大阪市城東区野江西ノ町二ノ六五七

電話 城東 (33) 3947

工場

大阪市城東区野江中ノ町二ノ五

電話 城東 (33) 5045



Y M

メタルラス
リフラス
ワイヤーラス



(カタログ贈呈)

J I S 565 許可工場

株式会社山中製作所製品

ラスなら何でも揃ふ

專業の店

井上工材株式會社

大阪市西区京町堀上通二丁目四番地

電話土佐堀④ 2727 番
4747

寄贈交換雜誌案内

現在本会に寄贈及交換並に購入している書籍は下記の通りで、同書籍は本会図書室(朝日ビル6階)に備え付けております故随意御覧下さい。

新建築……………新建築社
国際建築……………美術出版社
建築文化……………彰国社
建築雑誌……………日本建築学会
新都市……………都市計画協会
建設月報……………建設省大臣官房弘報課
金属表面技術……………金属表面技術協会
工学技術月報……………通産省工業技術庁
管工事工学……………日本管工事工業協会
日本学会誌月報……………日本学会誌
熔接界……………日本印刷出版株式会社
(その他)

建築と社会

第33輯 第4号

売価1部80円(送料共)

昭和27年3月25日印刷・昭和27年4月1日発行

編集発行人 沖田 誠 一

発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北浜 ②1334~9 番
振替口座大阪39975 番

大阪市北区堂山町66

印刷者 網野 栄

大阪市北区堂山町66

印刷所 株式会社研文社 電話豊崎④2056番

專業三十年

床 リグノイド 材 YC コンベス

製造・販売・責任施工

大阪コンベス建材社

大阪北区浪花町三五 電話豊崎(37)三二四八番(呼)
倉庫 大淀区本庄西通3の14

木毛セメント板

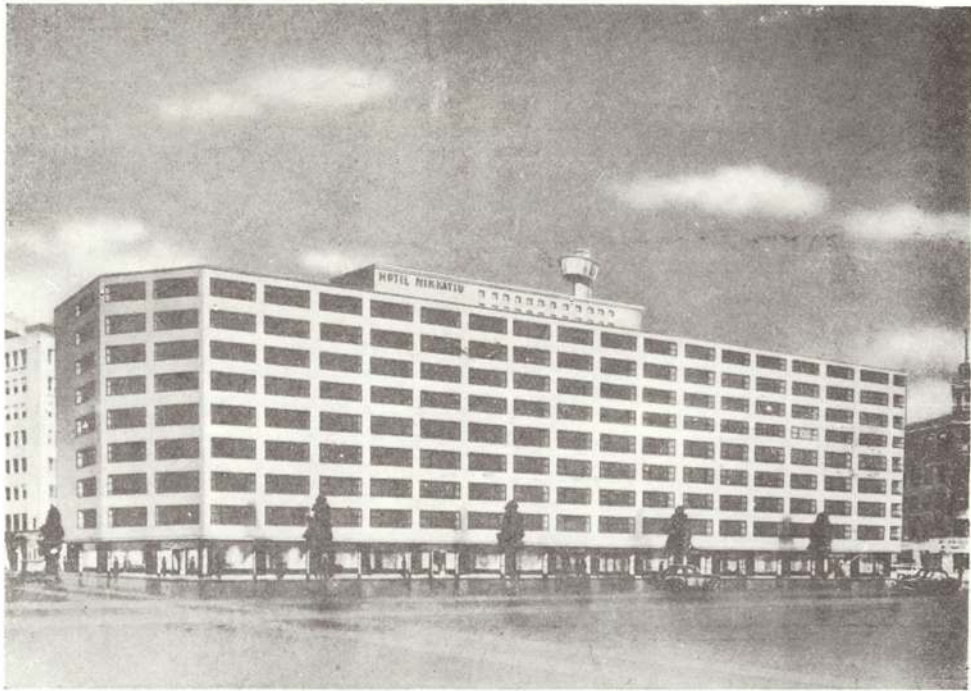
波型・厚型スレート葺工事
赤褐色塩焼瓦葺工事

東邦商会

大阪市東住吉区桑津町三丁目五九
電話天王寺(77)1296

日 活 國 際 會 館

給水・給湯・消火・衛生設備概要

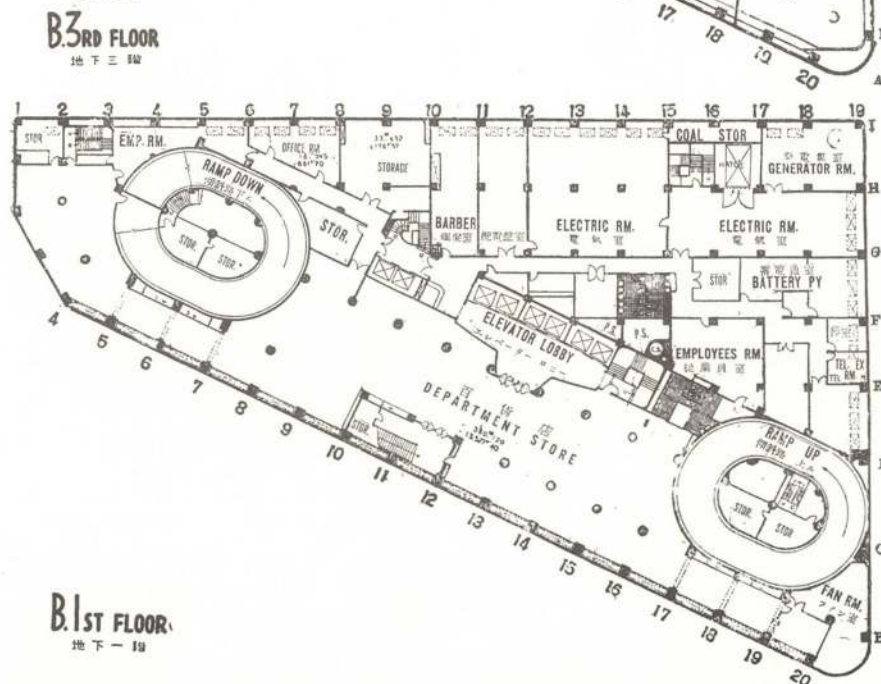
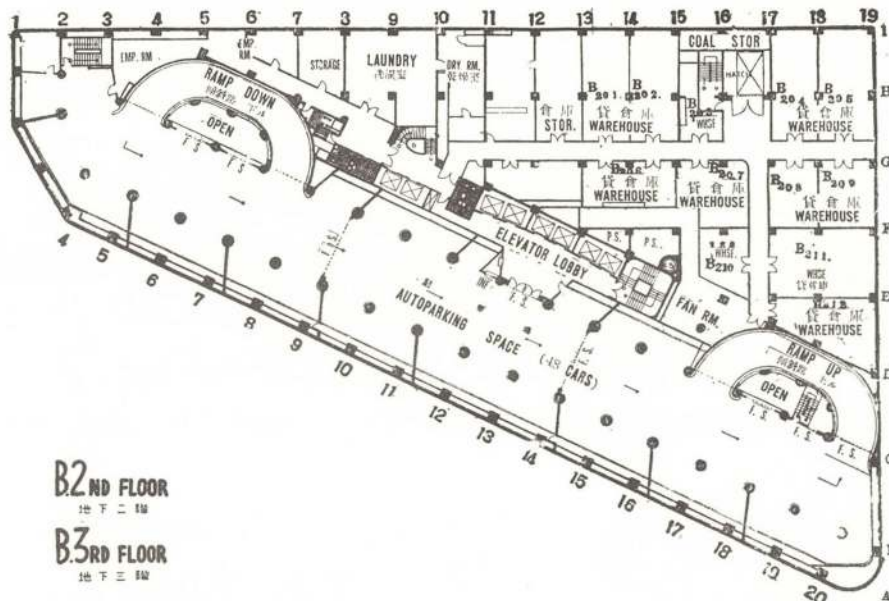
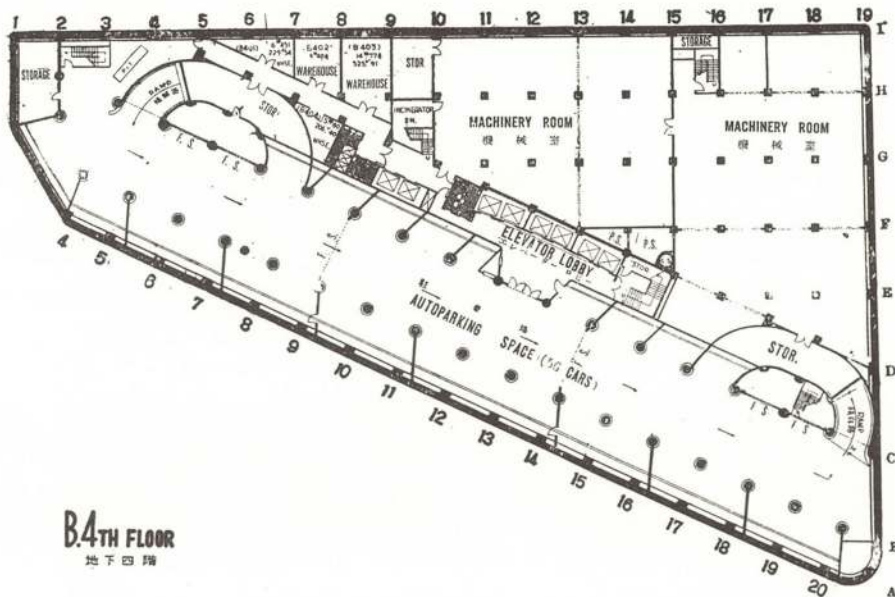


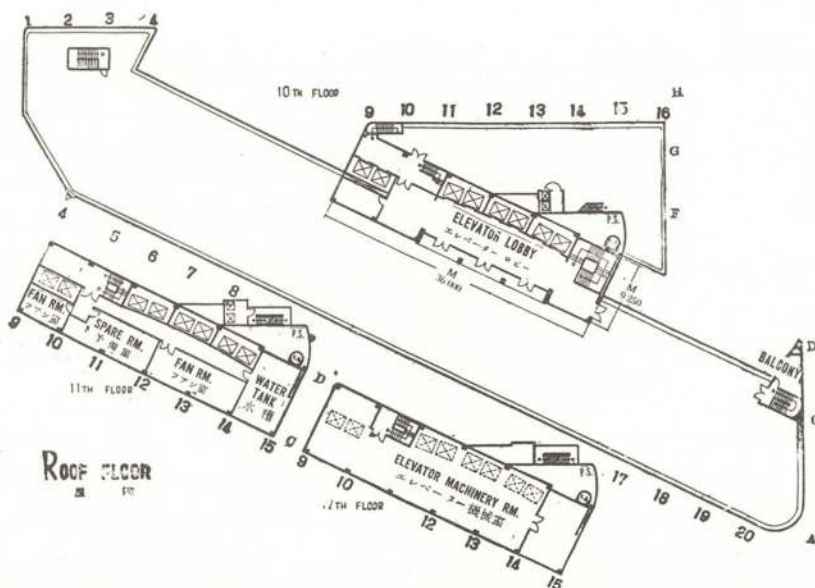
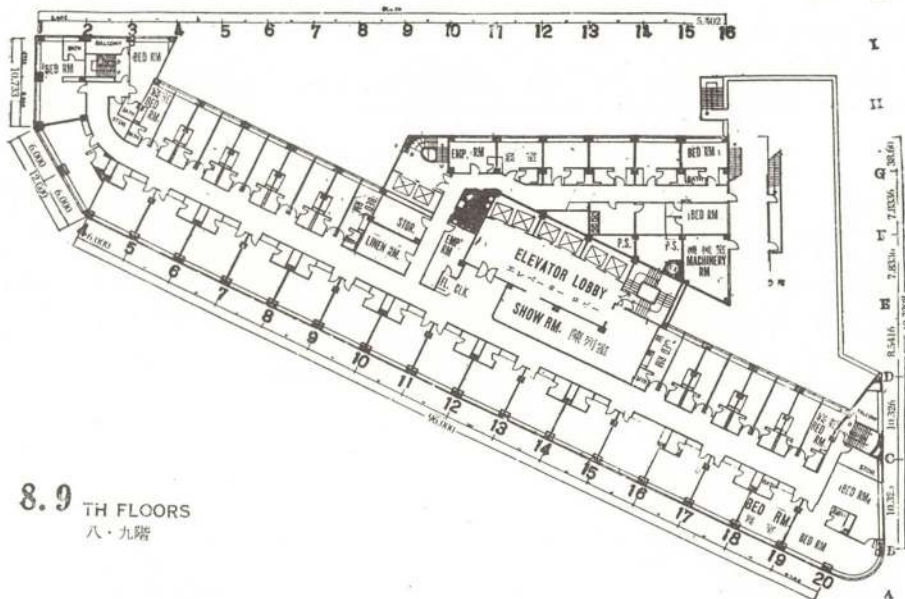
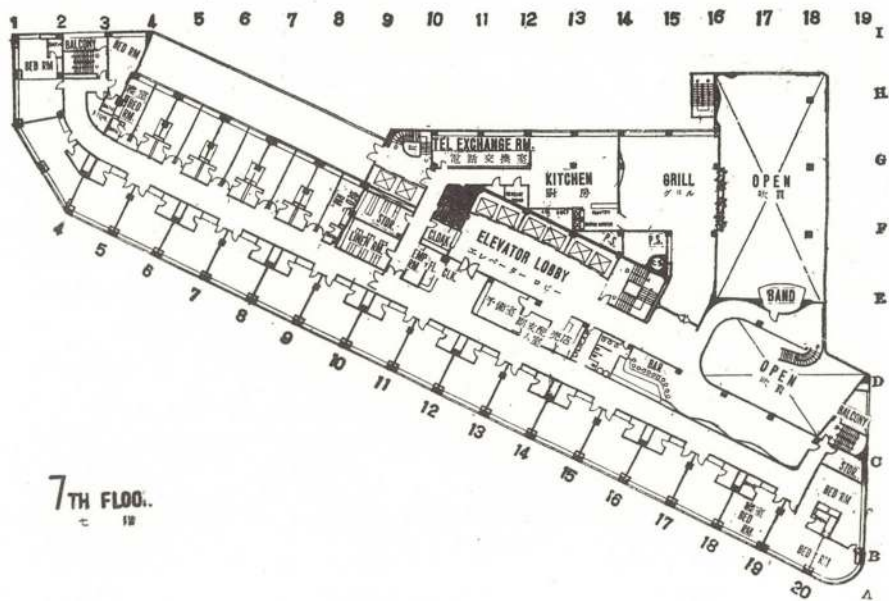
新 築 概 要

着 工	昭 和 2 5 年 1 月
竣 工	昭 和 2 7 年 3 月
位 置	東京都千代田区有楽町 1 丁目 1 番地
敷 地 面 積	1314.465 坪
建 築 面 積	1247.256 坪
建 築 延 面 積	14642.733 坪
階 数	地下4階 地上9階（塔屋3階付）
軒 高	102 尺
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造
設 計 施 工	株式会社 竹 中 工 務 店

衛 生 設 備 施 工

須 賀 工 業 株 式 會 社





衛生諸設備概要

1. 上水給水設備

東側及南側道路都水道本管より二本の**サービスマーンパイプ**を分岐建物内に引込み地下4階機械室内の受水槽に受水し、之より上水揚水**ポンプ**にて塔屋3階の屋上上水槽に揚水し、水槽よりは重力式に依り**バス**、洗面器、厨房等約510箇所に給水します。

2. 井水給水設備

本工事は地下4階の鑿井より**ボアホールポンプ**により地下水を地下4階床下内沈砂槽及井水貯水槽に貯水し、之より**濾過ポンプ**、急速濾過装置を経て浄水槽に貯水し、更に井水揚水**ポンプ**にて塔屋3階の屋上井水槽に揚水します。水槽よりは重力式により大小便器洗滌水、撤水栓、冷凍機冷却水等約360箇所に給水します。

3. 給湯設備

地下4階機械室内に**ストレージタンク**3罐を設置し蒸汽加熱管により加熱されたる温水を**バス**、洗面器、厨房其の他約480箇所に常時供給します。

4. 消火設備

地下4階機械室内に消火**ポンプ**、**クツションタンク**、空気圧縮機等を設備し各階87箇所の自家用消火栓及消防署専用の消火栓に接続し非常の際は消火栓の開放により自動的に消火**ポンプ**が起動いたします。又私設防火**ブロック**の屋外道路内配管にも連絡して共同消火の目的に供する様にいたしてあります。尚ほ建物外壁に**サイヤミーズコネクション**3個を設け消防署の**ポンプ**により補水をうけるようになつています。地下2, 3, 4階は自動車の駐車場となつています関係上之等のために泡沫式消火設備が設けてあります。

5. 排水通気設備

1階以上の各器具の排水は夫々取纏め都下水本管に直接放流します。地下1, 2, 3, 4階の排水は地下4階床下設置の汚水**ピット**及び雑排水**ピット**に導き排水**ポンプ**により都下水本管に排出します。通気管の殆どは各器具単独に取出し屋上に導いてあります。

6. 塵芥焼却爐並ダストホツパー設備

塵芥焼却炉には補助燃焼用の**ストーカ**を設備し之等は地階4階に設けてありまして煙突は単独に屋上に立上げてあります。**ダストホツパー**は各階1箇所宛設けてあります。

7. 衛生陶器及器具数

陶器は東洋陶器株式会社製1級品を使用し附属器具類は凡て**クローム**鍍金特製品を使用しています。又客用便所の**フラツシュ**弁は使用者が殆ど外人でありますので特に米国**スロンバルプ**会社製**ローヤルフラツシュ**弁を使用することにしております。

洋 風 バ ス	BH ~ 32.....	131組
洋 風 六 便 器	C ~ 150.....	131
〃	C ~ 38.....	83
〃	C ~ 15.....	2
和 風 六 便 器	C ~ 1.....	25
堅 型 小 便 器	U ~ 30.....	47
壁 掛 小 便 器	U ~ 23.....	25
洗 面 器	L ~ 340 H.....	132
〃	L ~ 340.....	73
〃	L ~ 300.....	8

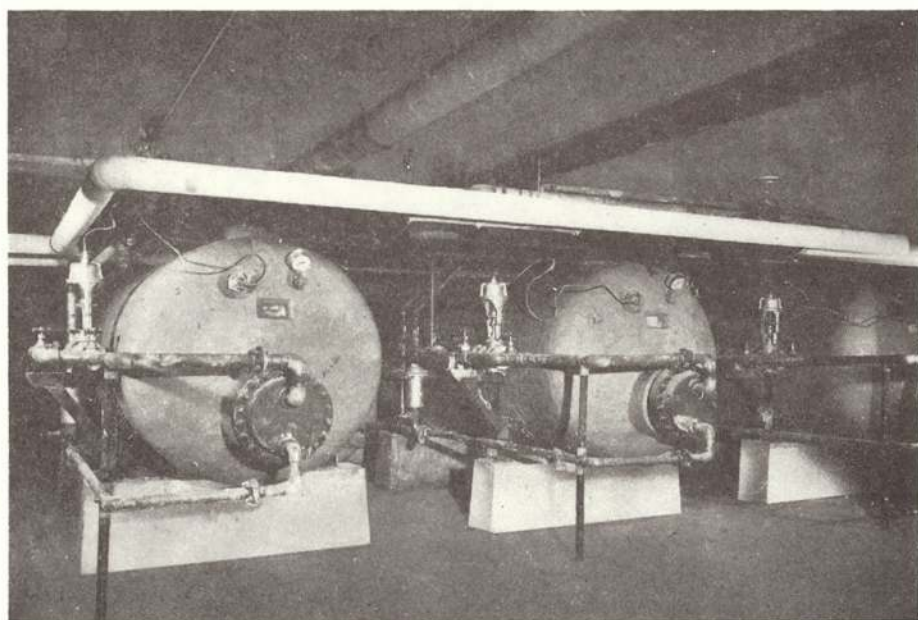
洗 面 器	L ~ 92.....	34組
〃	L ~ 73.....	2
〃	L ~ 2.....	4
〃	L ~ 126.....	3
手 洗 器	L ~ 5.....	6
〃	L ~ 34.....	1
洗 髪 流 し	S ~ 105.....	5
陶 器 流 し	SK ~ 18.....	11
ス ロ ッ プ シ ン ク	SK ~ 22.....	24
水 呑 器	S ~ 145.....	15
メデシン キヤビネット		134
鏡		112
水 石 鹼 抽 出 器		107

8. 本設備に使用せる主なる機器類

上 水 受 水 槽	鉄板製角型	巾3040耗×長3040耗×深1500耗.....	1基
屋 上 上 水 槽	〃	巾3040耗×長3660耗×深1500耗.....	1基
上 水 揚 水 ポ ン プ	電動機直結横型タービンポンプ		2台
		75耗×600立/分×60米×15馬力	
井 水 瀘 過 槽	鉄板製丸型	直径2000耗×高1900耗.....	1基
井 水 瀘 過 ポ ン プ	電動機直結横型セントヒューガルポンプ		2台
		75耗×600立/分×10米×3馬力	
井 水 揚 水 ポ ン プ	電動機直結横型タービンポンプ		2台
		75耗×600立/分×60米×15馬力	
屋 上 井 水 槽	鉄板製角型	巾3040耗×長3660耗×深1500耗.....	1基
ボ ア ホ ー ル ポ ン プ	電動機直結堅型タービンポンプ		4台
		125耗×12000石/日×29米×30馬力	
ス ト レ ー チ タ ン ク	鉄板製丸型	直径1210耗×長3030耗.....	3基
温 水 循 環 ポ ン プ	電動機直結横型セントヒューガルポンプ		1台
		50耗×250立/分×6米×1馬力	
消 火 ポ ン プ	電動機直結横型タービンポンプ		1台
		125耗×1400立/分×80米×40馬力	
ク ツ シ ョ ン タ ン ク	鉄板製丸型	直径900耗×長3000耗.....	1基
空 気 圧 縮 機	堅型空冷式	3 ^{1/2} ”×3”×5立/分×150封度×2馬力.....	1台
消 火 栓	口径1 ^{1/2} ”及2 ^{1/2} ”.....		87箇
汚 水 排 水 ポ ン プ	電動機直結堅型ナシクロツクポンプ		2台
		100耗×800立/分×20米×7 ^{1/2} 馬力	
雑 排 水 ポ ン プ	電動機直結堅型ギルチポンプ		2台
		75耗×500立/分×20米×7 ^{1/2} 馬力	
自 動 給 炭 機	米花式 L型 1号.....		1台



バスルーム



地下四階・機械室の一部

●第三三集 第四号 掲載広告一覽 (掲載順)

桜物産
安田レール
日本金具製作所
ヤハズラス
協和製作所
大阪機工
久保商店
マンテン
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
明正社
栄興商会
三晃商会
第一工業
浅海電気産業
近畿電気工事

東海電気土木
三高製作所
片倉の鋼管
樫野石灰工業
理研鋼材
米谷セメント化工
福屋工業所
大島応用化学工業
東京鋼板工業
田村商会
佐村木商店
吉田芳雄商店
黒川化学工業所
室谷商店
前沢商行
内外土木建材社
三舟窯業
大仏組
長岡鉄筋コンクリート
和田避雷針製作所
衣川鉄工所
水島商店

大阪耐酸工業所
大阪建材工業
開成鋼材
岩元工業
不二製作所
昭和鋼機
大和建設工芸
大日本硝子工業
井上淨夫商店
宮本建材
鈴木シヤタア商会
北尾商店
坂本商会
山本建材社
日本セメント防水剤製造所
大阪碇組
正起工業
大三製作所
油脂化工社
大建工業
旭化工板製造
日立製作所
日新工業